

又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

民法第四十四條第一項及ヒ第五十四條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス

第六十三條 會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各社員連帶シテ其辨濟ノ責ニ任ス

第六十四條 設立ノ後會社ニ加入シタル社員ハ其加入前ニ生シタル會社ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負フ

第六十五條 社員ニ非サル者ニ自己ノ社員ナリト信セシムヘキ行爲アリタルトキハ其者ハ善意ノ第三者ニ對シテ社員ト同一ノ責任ヲ負フ

第六十六條 社員ノ出資ノ減少ハ之ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但本店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲シタル後二年間債權者力之ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ此限ニ在ラス

第六十七條 會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第四節 社員ノ退社

第六十八條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メサリシトキハ又ハ或社員

ノ終身間會社ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六个月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス會社ノ存立期間ヲ定メタルト否トヲ問ハス己ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得

第六十九條 前條ニ掲ケタル場合ノ外社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總社員ノ同意
- 三 死亡
- 四 破産
- 五 禁治産
- 六 除名

第七十條 社員ノ除名ハ左ノ場合ニ限り他ノ社員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル社員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其社員ニ對抗スルコトヲ得ス

- 一 社員カ出資ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ催告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ出資ヲ爲ササルトキ
- 二 社員カ第六十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

三 社員カ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ當リ會社ニ對シテ不正ノ行爲ヲ爲シタルトキ

四 社員カ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサル場合ニ於テ其業務ノ執行ニ干與シタルトキ

五 其他社員カ重要ナル義務ヲ盡ササルトキ

第七十一條 退社員ハ勞務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト雖モ其持分ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

七十二條 會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ用非タルトキハ退社員ハ其氏又ハ氏名ノ使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得

七十三條 退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ此責任ハ其登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス前項ノ規定ハ他ノ社員ノ承諾ヲ得テ持分ヲ讓渡シタル社員ニ之ヲ準用ス

第五節 解散

第七十四條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生

- 二 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
 - 三 總社員ノ同意
 - 四 會社ノ合併
 - 五 社員カ一人ト爲リタルコト
 - 六 會社ノ破産
 - 七 裁判所ノ命令
- 第七十五條 前條第一號ノ場合ニ於テハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得但同意ヲ爲ササル社員ハ社退ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十六條 會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條 會社ノ合併ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十八條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

會社ハ前項ノ期間内ニ其債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ會社ノ合併ニ對シテ異議ヲ述ヘサリントキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ合併ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八十條 會社カ第七十八條第二項ニ定メタル公告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

會社カ知レタル債權者ニ催告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其催告受ケサリシ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八十一條 會社カ合併ヲ爲シタルトキハ二週内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合併後存続スル會社ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十二條 合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼ス

第八十三條 己ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ會社ノ解散ヲ裁

判所ニ請求スルコトヲ得但裁判所ハ社員ノ請求ニ因リ會社ノ解散ニ代ヘテ或社員ヲ除名スルコトヲ得

第六節 清算

第八十四條 會社ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存続スルモノト看做ス

第八十五條 解散ノ場合ニ於ケル會社財産ノ處分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ解散ノ日ヨリ二週内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十六條 前條ノ規定ニ依リテ會社財産ノ處分方法ヲ定メサリントキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外後十三條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條 清算ハ總社員又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス清算人ノ選任ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第八十八條 第七十四條第五號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第八十九條 會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第九十條 清算人ノ選任アリタルトキハ其清算人ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ自己ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第九十一條 清算人ノ職務左ノ如シ

- 一 務現ノ結了
- 二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
- 三 殘餘財産ノ分配

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權利ヲ有ス

清算人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

民法第八十一條ノ規定ハ合名會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十二條 會社ニ現存スル財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルトキハ

清算人ハ辨濟期ニ抱ハラズ社員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十三條 清算人數人アルトキハ清算ニ關スル行爲ハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

但第三者ニ對シテハ各自會社ヲ代理ス

第九十四條 清算人ノ就職ノ後遲滯ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作り之ヲ社員ニ交付スルコトヲ要ス

清算人ハ社員ノ請求ニ因リ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第九十五條 清算人ハ會社ノ債務ヲ辨濟シタル後ニ非サレハ會社財産ヲ社員ニ分配スルコトヲ得ス

第九十六條 社員カ選任シタル清算人ハ何時ニテモ之ヲ解任スルコトヲ得此解任ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第九十七條 清算人ノ解任又ハ變更ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スルコトヲ要ス

第九十八條 清算人ノ任務カ終了シタルトキハ清算人ハ遲滯ナク計算ヲ爲シテ各社員ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス

前項ノ計算ニ對シ社員カ一个月内ニ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス但清算人ニ不正ノ行爲アリタルハ此限ニ在ラズ

第九十九條 清算カ結了シタルトキハ清算人ハ遲滯ナク本店及ヒ支店ノ

所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一百條 會社カ事業ニ着手シタル後其設立カ取消サレタルトキハ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第一百一條 會社ノ帳簿、其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ第八十五條ノ場合ニ在リテ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後其他ノ場合ニ在リテハ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム

第一百二條 社員カ死亡シタル場合ニ於テ其相續人數人アルトキハ清算ニ關シテ社員ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

第一百三條 第六十三條ニ定メタル社員ノ責任ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後五年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

前項ノ期間經過ノ後ト雖モ分配セサル殘餘財産尙ホ存スルトキハ會社ノ債權者ハ之ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

第三章 合資會社

第一百四條 合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ之ヲ組織ス

第一百五條 合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外合資會社ニ關

スル規定ヲ準用ス

第一百六條 合資會社ノ定款ニハ第五十條ニ掲ケタル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第一百七條 會社ハ定款ヲ作りタル日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ第五十一條第一項ニ掲ケタル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ登記スルコトヲ要ス

第一百八條 有限責任社員ハ金錢其他ノ財産ノミヲ以テ其出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第一百九條 各無限責任社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ

無限責任社員數人アリキハ會社ノ業務執行ハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第二十條 支配人ノ選任及ヒ解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ無限責任社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第二十一條 有限責任社員ハ營業年度ノ終ニ於テ營業時間内ニ限り會社ノ財産目録及ヒ貸借對照表ノ閱覽ヲ求メ且會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ有限責任社員ノ請求ニ因リ何時ニテ

モ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ狀況ノ検査ヲ許スコトヲ得

第一百十二條 有限責任社員ハ無限責任社員全員ノ承諾アルトキハ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得

第一百十三條 有限責任社員ハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得

第一百十四條 定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メサルトキハ各無限責任社員會社ヲ代表ス

第一百十五條 有限責任社員ハ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルコトヲ得ス

第一百十六條 有限責任社員ニ自己ヲ無限責任社員ナリト信セシムヘキ行爲アリタルトキハ其社員ハ善意ノ第三者ニ對シテ無限責任社員ト同一ノ責任ヲ負フ

第一百十七條 有限責任社員カ死亡シタルトキハ其相續人之ニ代ハリテ社員ト爲ル

有限責任社員ハ禁治産ノ宣告ヲ受クルモ之ニ因リテ退社セス

第一百十八條 合資會社ハ無限責任社員又ハ有限責任社員ノ全員カ退社シタルトキハ解散ス但有限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テ無限責任社員ノ一致ヲ以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ妨ケス
前項但書ノ場合ニ於テハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合資會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合名會社ニ付テハ第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四章 株式會社

第一節 設立

第一百十九條 株式會社ノ設立ニハ七人以上ノ發起人アルコトヲ要ス

第一百二十條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

一 目的

二 商號

三 資本ノ總額

四 一株ノ金額

五 取締役カ有スヘキ株式ノ數

六 本店及ヒ支店ノ所在地

七 會社カ公告ヲ爲ス方法

改正日本商法

八 發起人ノ氏名、住所

第二百一十一條 前條第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定款ニ記載セザリシトキハ創立總會又ハ株主總會ニ於テ之ヲ補足スルコトヲ得

前項ノ株主總會ノ決議ハ第二百九條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス
第二百二十二條 左ニ掲ケタル事項ヲ定メタルトキハ之ヲ定款ニ記載スルニ非サレハ其效ナシ

一 存立時期又ハ解散ノ事由

二 株式ノ額面以上ノ發行

三 發起人カ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受クヘキ者ノ氏名

四 金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ氏名、其財産ノ種類、價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數

五 會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受クヘキ報酬ノ額

第二百二十三條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ會社ハ之ニ因リテ成立ス此場合ニ於テハ發起人ハ遲滞ナク株金ノ四分ノ一ヲ下ラサル

第一回ノ拂込ヲ爲シ且取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス此選任ハ發起人ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二百二十四條 取締役ハ其選任後遲滞ナク第二百二十二條第三號乃至第五

號ニ掲ケタル事項及ヒ第一回ノ拂込ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査セシムル

爲メ監査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

裁判所ハ檢査役ノ報告ヲ聽キ第三百二十五條ノ規定ニ準據シテ相當ノ處

分ヲ爲スコトヲ得

第二百二十五條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサルトキハ株主ヲ募集スル

コトヲ要ス

第二百二十六條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證二通ニ其引受

クヘキ株式ノ數ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

株式申込證ハ發起人之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 定款作成ノ年月日

二 第二百二十條及ヒ第二百二十二條ノニ掲ケタル事項

三 各發起人カ引受タル株式ノ數

四 第一回拂込ノ金額

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ引受價額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百二十七條 株式ノ申込ヲ爲シタル者ハ其引受クヘキ株式ノ數ニ應シ

テ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第二百二十八條

株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下ルコトヲ得ス

第一回拂込ノ金額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第二百二十九條

株式總數ノ引受アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク各株ニ付キ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ第一回ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

第二百三十條

株式引受人カ前條ノ拂込ヲ爲ササルトキハ發起人ハ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株式引受人ニ通知スルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

發起人カ前項ノ通知ヲ爲シタルモ株式引受人カ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フ此場合ニ於テ發起人ハ其者カ引受ケタル株式ニ付キ更ニ株主ヲ募集スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ株式引受人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第二百三十一條

各株ニ付キ第二百二十九條ノ拂込アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スルコトヲ要ス

創立總會ハ株式引受人ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ヲ引受ケタル

者出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第一百五十六條第一項、第二項及ヒ第六十一條第三項、第四項、第六十二條及ヒ第六十三條第一項、第二項ノ規定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス

第二百三十二條

發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第二百三十三條

創立總會ニ於テハ取締役及ヒ監査役ヲ選任スルヲ要ス

第二百三十四條

取締役及ヒ監査役ハ左ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

- 一 株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ
 - 二 各株ニ付キ第二百二十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ
 - 三 第二百二十二條第三號乃至第五條ニ掲ケタル事項ノ正當ナルヤ否ヤ
- 取締役又ハ監査役中發起人ヨリ選任セラレタル者アルトキハ創立總會ハ特ニ檢査役ヲ選任シ其者ニ代ハリテ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十五條

創立總會ニ於テ第二百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得但金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アル場合ニ於テ之ニ對シテ與フル株式ノ

數ヲ減シタルトキハ其者ハ金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スコトヲ得

第三百三十六條 引受ナキ株式又ハ第二百二十九條ノ拂込ノ未済ナル株式アルトキハ發起人ハ連帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込カ取消サレタルトキ亦同シ

第三百三十七條 前二條ノ規定ハ發起人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス
第三百三十八條 創立總會ニ於テハ定款ノ變更又ハ設立ノ廢止ノ決議ヲモ爲スコトヲ得

第三百二十九條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

第四百十條 株式總數ノ引受アリタル後一年內ニ第二百二十九條ノ拂込カ終ハサルトキ又ハ其拂込カ終ハリタル後六個月內ニ發起人カ創立總會ヲ招集セサルトキハ株式引受人ハ其申込ヲ取消シ拂込ミタル金額ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四百十一條 會社ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ**第二百二十四條**ニ定メタル調査終了ノ日ヨリ又發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間內ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第二百二十四條第一號乃至第四號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項

二 本店及ヒ支店

三 設立ノ年月日

四 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

五 各株ニ付キ拂込ミタル株金額

六 開業前ニ利息ヲ配當スヘキコトヲ定メタルトキハ其利率

七 取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所

第五十一條第二項、**第三項**、**第五十二條**及ヒ**第五十三條**ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第四百十二條 會社カ前條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ハ株式引受人ハ詐欺又ハ強迫ニ因リテ其申込ヲ取消スコトヲ得ス

第二節 株式

第四百十三條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分ツコトヲ要ス

第四百十四條 株主ノ責任ハ其引受ケ又ハ讓受ケタル株式ノ金額ヲ限度トス

株主ハ株金ノ拂込ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百十五條 株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要ス

株式ノ金額ハ五拾圓ヲ下ルコトヲ得ス但一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合ニ限り之ヲ貳拾圓マテニ下スコトヲ得

第四百十六條 株式カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第四百十七條 株券ハ第四百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ發行シタル株券ハ無効トス但株券ヲ發行シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第四百十八條 株券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 會社ノ商號
- 二 第四百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年月日
- 三 資本ノ總額
- 四 一株ノ金額

一時ニ株金ノ全額ヲ拂込マシメサル場合ニ於テハ拂込アル毎ニ其金額ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

第四百十九條 株式ハ定款ニ別段ノ定ナキハ會社ノ承諾ナクシテ之ヲ

他人ニ讓渡スルコトヲ得但第四百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ之ヲ讓渡シ又ハ其讓渡ノ豫約ヲ爲スルコトヲ得ス

第四百五十條 記名株式ノ讓渡ハ讓受人ノ氏名、住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其氏名ヲ株券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百五十一條 會社ハ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ヲ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

株式ハ資本減少ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ消却スルコトヲ得ス但定款ノ定ムル所ニ從ヒ株主ニ配當スヘキ利益ヲ以テスルハ此限ハ在ラス

第四百五十二條 株金ノ拂込ハ二週間前ニ之ヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス株主カ期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ更ニ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株主ニ通知スルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

第四百五十三條 會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ拂込ヲ爲

ササルトキハ其權利ヲ失フ
前項ノ場合ニ於テハ會社ハ株式ノ各讓渡人ニ對シ二週間ヲ下ラサル期
間内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ最
モ先ニ滯納金額ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人株式ヲ取得ス
讓渡人カ拂込ヲ爲ササルハ會社ハ株式ヲ競賣スルトコヲ要ス此場合
ニ於テ競賣ニ依リテ得タル金額カ滯納金額ニ滿タサルハ從前ノ株主
ヲシテ其不足額ヲ辨濟セシムルコトヲ得若シ從前ノ株主カ二週間内ニ
之ヲ辨濟セサルハ會社ハ讓渡人ニ對シテ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得
前三項ノ規定ハ會社カ損害賠償及ヒ定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求
ヲ爲スコトヲ妨ケス

第一百五十四條 前條ニ定メタル讓渡人ノ責任ハ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シ
タル後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第一百五十五條 株金全額ノ拂込アリタルトキハ株主ハ其株券ヲ無記名式
ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

株主ハ何時ニテモ其無記名式ノ株券ヲ記名式ト爲スコトヲ請求スルコ
トヲ得

第三節 會社ノ機關

第一款 株主總會

第一百五十六條 總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ
其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ通知ニハ總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項ヲ記載スル
コトヲ要ス

會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ會日ヨリ三週間前ニ
總會ヲ開クヘキ旨及ヒ前項ニ掲ケタル事項ヲ公告スルコトヲ要ス

第一百五十七條 定時總會ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ取締役之ヲ招集ス
ルコトヲ要ス

年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ總會ヲ招集ス
ルコトヲ要ス

第一百五十八條 定時總會ハ取締役カ提出シタル書類及ヒ監査役ノ報告書
ヲ調査シ其利益又ハ利息ノ配當ヲ決議ス

前項ニ掲ケタル書類ノ當否ヲ調査セシムル爲メ總會ハ特ニ検査役ヲ選
任スルコトヲ得

第一百五十九條 臨時總會ハ必要アル毎ニ取締役之ヲ招集ス

第一百六十條 資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主ハ總會ノ目的及ヒ其招集

ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

取締役カ前項ノ請求アリタル後二週間内ニ總會招集ノ手續ヲ爲ササル
ルハ其請求ヲ爲シタル株主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ其招集ヲ爲スコトヲ得
第六十一條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク
外出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ其株券ヲ會社ニ供託
スルニ非サレハ其議決權ヲ行フコトヲ要ス

株主ハ代理人ヲ以テ其議決權ヲ行フコトヲ得但代理人ハ代理權ヲ證ス
ル書面ヲ會社ニ差出タスコトヲ要ス

總會ノ決議ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其議決權ヲ行フコトヲ
要ス

第六十二條 各株主ハ一葉ニ付キ一個ノ議決權ヲ有ス但十一株以上ヲ
有スル株主ノ議決權ハ定款ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第六十三條 總會招集ノ手續又ハ其決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ反ス
ルトキハ株主ハ其決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一个月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

取締役又ハ監査役ニ非サル株主カ第一項ノ請求ヲ爲シタルトキハ其株
券ヲ供託シ且會社ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第二款 取締役

第六十四條 取締役ハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ之ヲ選任ス

第六十五條 取締役ハ三人以上タルコトヲ要ス

第六十六條 取締役ノ任期ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス但其任期滿了ノ
後之ヲ再選スルコトヲ妨ケス

第六十七條 取締役ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スル
コトヲ得但任期ノ定アル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其任期前ニ之
ヲ解任シタルトキハ其取締役ハ會社ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害
ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六十八條 取締役ハ定款ニ定メタル員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スル
コトヲ得

第六十九條 會社ノ業務執行ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ取締役ノ過
半數ヲ以テ之ヲ決ス支配人ノ選任及ヒ解任亦同シ

第七十條 取締役ハ各自會社ヲ代表ス
第六十二條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス

第七十一條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議録ヲ本店及ヒ支店ニ備ヘ置

キ且株主名簿及ヒ社債原簿ヲ本店ヘ備置クコトヲ要ス

株主及ヒ會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ
閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第七十二條 株主名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 株主ノ氏名、住所
- 二 各株主ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號
- 三 各株ニ付キ拂込ミタル株金額及ヒ拂込ノ年月日
- 四 各株式ノ取得ノ年月日
- 五 無記名式ノ株券ヲ發行シタル片ハ其數、番號及ヒ發行ノ年月日

第七十三條 社債原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 社債權者ノ氏名、住所
- 二 債權ノ番號
- 三 社債ノ總額
- 四 各社債ノ金額
- 五 社債ノ利率
- 六 社債償還ノ方法及ヒ期限

七 債券發行ノ年月日

八 各責社ノ取得ノ年月日

九 無記名式ノ債券ヲ發行シタル片ハ其數、番號及ヒ發行ノ年月日

第七十四條 會社カ其資本ヲ半額ヲ失ヒタルトキハ取締役ハ遲滯ナク

株主總會ヲ招集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス

會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ

取締役ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條 取締役ハ株主總會ノ認許アルニ非レハ自己又ハ第三者ノ

爲メニ會社ハ營業ノ部類ニ屬スル商行ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的ト

スル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

取締役カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ株

主總會ハ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ監査役ノ一人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二个月

間之ヲ行ハサル片ハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第七十六條 取締役ハ監査役ノ承諾ヲ得タルトキニ限り自己又ハ第三

者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 取締役カ法令又ハ定款ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ株

主總會ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ其行爲ニ對シ株主總會ニ於テ異議ヲ述ヘ且監査役ニ其旨ヲ通知シタル取締役ニハ之ヲ適用セス

第七十八條

株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ其株券ヲ供託シ且監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第七十九條

取締役カ受クヘキ報酬ハ定款ニ其額ヲ定メサリシトキハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第三款 監査役

第八十條

監査役ノ任期ハ之ヲ一年トス但其任期滿了ノ後之ヲ再選スルコトヲ妨ケス

第八十一條

監査役ハ何時ニテモ取締役ニ對シテ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第八十二條

監査役ハ株主總會ヲ招集スル必要アリト認メタルトキハ其招集ヲ爲スコトヲ得此總會ニ於テハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ特ニ檢査役ヲ選任スルコトヲ得

第八十三條

監査役ハ取締役カ株主總會ニ提出セントスル書類ヲ調査シ株主總會ニ其意見ヲ報告スルコトヲ要ス

第八十四條

監査役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼ヌルコトヲ得ス但取締役中ニ缺員アルトキハ取締役及ヒ監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ定ムルコトヲ得

第八十五條

前項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監査役ハ第九十二條第一項ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ承認ヲ得ルマテハ監査役ノ職務ヲ行フヲ得ス

第八十五條

會社カ取締役ニ對シ又ハ取締役カ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其訴ニ付テハ監査役會社ヲ代表ス但株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代表セシムルコトヲ得

第八十六條 監査役カ其任務ヲ怠リタルトキハ會社及ヒ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第八十七條 株主總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第八十五條第一項但書及ヒ第二項ノ規定ヲ準用ス
前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ其株券ヲ供託シ且取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第八十八條 監査役ハ其破産又ハ禁治産ニ因リテ退任ス

第八十九條 監査役ニ之ヲ準用ス

第四節 會社ノ計算

第九十條 取締役ハ定時總會ノ會日ヨリ一週間前ニ左ノ書類ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

一 財産目錄

二 貸借對照表

三 營業報告書

四 損益計算書

五 準備金及ヒ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案

第九十一條 取締役ハ定時總會ノ會日前ニ前條ニ掲ケタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ本店ニ備フルコトヲ要ス

株主及ヒ會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第九十二條 取締役ハ第九十條ニ掲ケタル書類ヲ定時總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第九十三條 定時總會ニ於テ前條第一項ノ承認ヲ爲シタルトキハ會社ハ取締役及ヒ監査役ニ對シテ其責任ヲ解除シタルモノト看做ス但取締役又ハ監査役ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス

第九十四條 會社ハ其資本ノ四分ノ一ニ達スルマテハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其利益ノ二十分ノ一以上ヲ積立ツルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ前項ノ額ニ達スルマテ之ヲ準備金ニ組入ルルコトヲ要ス

第九十五條 會社ハ損失ヲ填補シ且前條第一項ニ定メタル準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第九十六條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ第四百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ開業ヲ爲スニ至ルマテ一定ノ利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得但其利率ハ法定利率ニ超ユルコトヲ得

前項ニ掲ケタル定款ノ規定ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第九十七條 利益又ハ利息ノ配當ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ之ヲ爲ス但會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限ニ在ラス

第九十八條 裁判所ハ資本ノ十分ノ一以下ニ當タル株主ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ檢査役ヲ選任スル

ヲ得

檢査役ハ其調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス此場合ニ於テ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ監査役ヲシテ株主總會ヲ招集セシムルコトヲ得

第五節 社債

第九十九條 社債ハ第二百九條ニ定メタル決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

第一百條 社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ニ超ユルコトヲ得ス

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産カ前項ノ金額ニ滿タサルトキハ社債ノ金額ハ其財産ノ額ニ超ユルコトヲ得ス

第一百一條 各社債ノ金額ハ貳拾圓ヲ下ルコトヲ得ス

第一百二條 社債權者ニ償還スヘキ金額カ券面額ニ超ユヘキコトヲ定メタルトキハ其金額ハ各社債ニ付キ同一ナルコトヲ要ス

第一百三條 社債ヲ募集セントスルトキハ取締役ハ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

- 一 第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項
- 二 會社ノ商號

改正日本商法

三 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其償還ヲ了ヘサル總額

四 社債發行ノ價額又ハ其最低價額

五 會社ノ資本及ヒ拂込ミタル株金ノ總額

六 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額

第二百四條 社債ノ募集カ完了シタルトキハ取締役ハ各社債ニ付キ其全額ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

取締役ハ前項ノ規定ニ從ヒ全額ノ拂込ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルトヲ要ス

第二百五條 債券ニハ第二百三條第一號乃至第二號ニ掲ケタル事項及ヒ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

第二百六條 記名社債ノ讓渡ハ讓受人ノ氏名住所ヲ社債原簿ニ記載シ且其氏名ヲ債券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二百七條 第一百五十五條ノ規定ハ債券ニ之ヲ準用ス

第六節 定款ノ變更

第二百八條 定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテ之ヲ變更スルコトヲ得

第二百九條 定款ノ變更ハ總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當タル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

前項ニ定メタル員數ノ株主カ出席セサルトキハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各株主ニ對シテ其假議決ノ趣旨ノ通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其趣旨ヲ公告シ更ニ一个月ヲ下ラサル期間内ニ第二回ノ株主總會ヲ召集スルコトヲ要ス

第二回ノ株主總會ニ於テハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス

前二項ノ規定ハ會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス
第二百十條 會社ノ資本ハ株金額拂込ノ後ニ非サレハ之ヲ増加スルコトヲ得ス

第二百十一條 會社ハ其資本ヲ増加スル場合ニ限り優先株ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其旨ヲ定款ニ記載スルコトヲ要ス

第二百十二條 會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ定款ノ變更カ優先株主ニ損害ヲ及ホスヘキトキハ株主總會ノ決議ノ外優先株主ノ總會ノ決議アルコトヲ要ス

優先株主ノ總會ニハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百十三條 會社カ其資本ヲ増加シタル場合ニ於テ各新株ニ付キ第百二十九條ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ遲滞ナク株主總會ヲ招集シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス

第二百十四條 監査役ハ左ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス

- 一 新株數ノ引受アリタルヤ否ヤ
 - 二 各新株ニ付キ第百二十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ
 - 三 金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル者アルトキハ其財産ニ對シテ與フル株式ノ數ノ正當ナルヤ否ヤ
- 株主總會ハ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムル爲メ特ニ檢査役ヲ選任スルコトヲ得

第二百十五條 株主總會ニ於テ金錢以外ノ財産ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ減少スルコトヲ得此場合ニ於テハ第百二十五條但書ノ規定ヲ準用ス

第二百十六條 引受ナキ株式又ハ第百二十九條ノ拂込ノ未濟ナル株式アルトキハ取締役ハ連帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

株式ノ申込カ取消サンタルトキ亦同シ

第二百十七條 會社ハ第百十三條ノ規定ニ依リテ招集シタル株主總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 増加シタル資本ノ總額
- 二 資本増加ノ決議ノ年月日
- 三 各新株ニ付キ拂込ミタル總金額
- 四 優先株ヲ發行シタルトキハ其株主ノ權利

前項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ新株券ノ發行及ヒ新株ノ讓渡又ハ其豫約ヲ爲スコトヲ得ス

第二百十八條 新株ヲ發行シタルトキハ前條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年月日ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

優先株ヲ發行シタルトキハ其株主ノ權利ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

第二百十九條 第百二十七條乃至第百三十條、第百四十條、第百四十二條及ヒ第百四十七條第二項ノ規定ハ新株發行ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十條 株主總會ニ於テ資本減少ノ決議ヲ爲ストキハ同時ニ其減少ノ方法ヲ決議スルコトヲ要ス

第七十八條乃至第八十條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七節 解散

第二百一十一條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 第七十四條第一號、第二號、第四號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事由
- 二 株主總會ノ決議
- 三 株主カ七人未滿ニ減シタルトキ

第二百一十二條 前條第二號及ヒ合併ノ決議ハ第二百九條ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百一十三條 會社カ合併ヲ爲サント欲スルトキハ其旨ヲ公告シテ株主總會ノ會日前一个月ヲ超エサル期間及ヒ開會中記名株ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得

株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ日ヨリ第八十一條ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ株主ハ其記名株ヲ讓渡スコトヲ得ス

第二百一十四條 會社カ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外取締役ハ遲滞ナク株主ニ對シテ其通知ヲ爲シ且無記名株ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百一十五條 第七十六條及ヒ第七十八條乃至第八十二條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第八節 清算

第二百一十六條 會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外取締役其清算人ト爲ル但定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第二百一十七條 清算人ハ就職ノ後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第二百五十八條第二項及ヒ第九十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百一十八條 株主總會ニ於テ選任シタル清算人ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得
重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監查役又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當

タル株主ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第二百二十九條 殘餘財産ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ之ヲ株主ニ分配スルコトヲ要ス但會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異リタル定アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二百三十條 清算事務カ終ハリタルトキハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス**第二百五十八條**第二項及ヒ**第九十三條**ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十一條 會社招集ノ手續又ハ其決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ反スルトキハ清算人ハ其決議ノ無効ノ告宣ヲ請求ヲスルコトヲ要ス

第二百三十二條 會社カ事業ニ着手シタル後其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第二百三十三條 會社ノ帳簿其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ本店ノ所在地ニ於テ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ清算人其他ノ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ選任ス

第二百三十四條 **第八十四條**、**第八十九條**乃至**第九十三條**、**第九十五條**、

第九十七條、**第九十九條**、**第五百十九條**、**第六十條**、**第六十三條**、**第七十六條**乃至**第七十八條**、**第八十一條**、**第八十三條**乃至**第八十五條**、**第八十七條**及ヒ**民法第七十九條**、**第八十條**ノ規定ハ式株會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五章 株式合資會社

第二百三十五條 株式合資會社ハ無限責任社員ト株主トヲ以テ之ヲ組織ス

第二百三十六條 左ノ事項ニ付テハ合資會社ニ關スル規定ヲ準用ス

- 一 無限責任社員相互間ノ關係
- 二 無限責任社員ト株主及ヒ第三者トノ關係
- 三 無限責任社員ノ退社

此他株式合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外株式會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百三十七條 無限責任社員ハ發起人ト爲リテ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

- 一 第百廿條第一號第二號第四號第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項
- 二 株金ノ總額
- 三 無限責任社員ノ氏名、住所

四 無限責任社員株ノ金以外ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準
第二百三十八條 無限責任社員ハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス株式申込證
ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 第二百二十二條、第二百二十六條第二項第一號、第四號及ヒ前條ニ
掲ケタル事項

二 無限責任社員カ株式ヲ引受ケタルトキハ其各自カ引受ケタル株
式ノ數

第二百三十九條 創立總會ニ於テハ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス
無限責任社員ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス

第二百四十條 無限責任社員ハ創立總會ニ出席シテ其意見ヲ述フルコ
トヲ得但株式ヲ引受ケタルトキト雖モ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス
無限責任社員カ引受タル株式其他ノ出資ハ議決權ニ關シテハ之ヲ算入
セス

前二項ノ規定ハ株主總會ニ之ヲ準用ス

第二百四十一條 監査役ハ第三百三十四條第一項及ヒ第二百三十七條第四
號ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第二百四十二條 會社ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支

店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第二百二十條第一號、第二號、第四號、第七號及ヒ第四百十一條
第一項第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項

二 株金ノ總額
三 無限責任社員ノ氏名、住所

四 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及ヒ財産ヲ目的トスル出
資ノ價格

五 會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メタルトキハ其氏名
六 監査役ノ氏名、住所

第二百四十三條 會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ニハ株式會社ノ取締役
ニ關スル規定ヲ準用ス但第六十四條乃至第六十八條、第七十五
條及ヒ第七十九條ノ規定ハ此限ニ在ラス

第二百四十四條 合資會社ニ於テ總社員ノ同意ヲ要スル事項ニ付テハ株
主總會ノ決議ノ外無限責任社員ノ一致アルコトヲ要ス

第二百四十五條 監査役ハ無限責任社員ヲシテ株主總會決ノ議ヲ執行セ
シムル責ニ任ス

第二百四十六條 株式合資會社ハ合資會社ト同一ノ事由ニ因リテ解散ス但第百八十三條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第二百四十七條 無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テ株主ハ第百九條ニ定メタル決議ニ依リ株式會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス第百十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十八條 會社カ解散シタルトキハ合併破産又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ヲ除ク外清算ハ無限責任社員ノ全員又ハ其選任シタル者及ヒ株主總會ニ於テ選任シタル者之ヲ爲ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

無限責任社員カ清算人ヲ選任スルトキハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス株主總會ニ於テ選任スル清算人ハ無限責任社員ノ全員若クハ其相續人又ハ其選任スル者ト同數ナルコトヲ要ス

第二百四十九條 無限責任社員ハ何時ニテモ其選任シタル清算人ヲ解任スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ清算人ノ解任ニ之ヲ準用ス

第二百五十條 第百二條ノ規定ハ株式合資會社ノ無限責任社員ニ之ヲ

準用ス

第二百五十一條 清算人ハ第二百二十七條第一項及ヒ第二百三十條第一項ニ定メタル計算ニ付キ株主總會ノ承認ノ外無限責任社員全員ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二百五十二條 株式合資會社ハ第二項四十四條ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲スコトヲ得

第二百五十三條 前條ノ場合ニ於テハ株主總會ハ直チニ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス此總會ニ於テハ無限責任社員モ亦其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ議決權ヲ行フコトヲ得

第七十八條及ヒ第七十九條第一項第二項ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百五十四條 會社ハ組織變更ニ付キ債權者ノ承認ヲ得又ハ第七十九條第二項ニ定メタル義務ヲ履行シタル後二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ株式合資會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ株式會社ニ付テハ第百四十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六章 外國會社

第二百五十五條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ日本ニ成立ス

ル同種ノモノノ又ハ最モ之ニ類似セルモノト同一ノ登記及ヒ公告ヲ爲スコトヲ要ス

右ノ外日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ハ其日本ニ於ケル代表者ヲ定メ且支店設立ノ登記ト同時ニ其氏名住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十二條ノ規定ハ外國會社ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第二百五十六條 前條第一項及ヒ第二項ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項カ外國ニ於テ生シタルトキハ登記ノ期間ハ其通知ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二百五十七條 外國會社カ始メテ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ第三者ハ其會社ノ成立ヲ否認スルコトヲ得

第二百五十八條 日本ニ支店ヲ設ケ又日本ニ於テ商業ヲ營ムヲ以テ主タル目的トスル會社ハ外國ニ於テ設立スルモノト雖モ日本ニ於テ設立スルモノト會社ト同一ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第二百五十九條 第四百十七條、第四百十九條、第五百十條、第五百十五條第一項、第二百六條、第二百七條及ヒ第二百十七條第二項ノ規定ハ日本ニ於テスル外國會社ノ株式ノ發行及ヒ其株式若クハ社債ノ讓渡ニ之ヲ

準用ス此場合ニ於テハ始メテ日本ニ設ケタル支店ヲ以テ本店ト看做ス

第二百六十條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其代表者カ會社ノ業務ニ付キ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其支店ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

第七章 罰則

第二百六十一條 發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 本編ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 二 本編ニ定メレル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルトキ
- 三 本編ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメサリシトキ
- 四 本編ノ規定ニ依ル調査ヲ妨ケタルトキ
- 五 第四十六條ノ規定ニ違反シテ開業ノ準備ニ着手シタルトキ
- 六 第二百二十六條第二項及ヒ第二百三十八條第二項ノ規定ニ反シ株

式申込證ヲ作ラス之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

七 第四百四十七條第一項又ハ第二百十七條第二項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ發行シタルトキ

八 株券又ハ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

九 定款、株主名簿、社債原簿、總會ノ決議錄、財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書ヒ及準備金並ニ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案ヲ本店若クハ支店ニ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セム又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

十 第七十四條第一項又ハ第九十八條第二項ノ規定ニ反シテ株主總會ヲ招集セサルトキ

第二百六十二條 發起人會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ拾圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルルキ

二 第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違反シ合併、會社財産ノ處分、同資本ノ減少又ハ組織ノ變更ヲ爲シタルトキ

三 檢査役ノ調査ヲ妨ケタルトキ

四 第五百一十一條第一項ノ規定ニ反シ株式ヲ取得シ若クハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シテ之ヲ消却シタルトキ

五 第五百五十五條第一項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ無記名式ト爲シタルトキ

六 第七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

七 第九十四條ノ規定ニ反シ準備金ヲ積立ス又ハ第九十五條第一項若クハ第九十六條ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキ

八 第二百條ノ規定ニ違反シテ社債ヲ募集シタルトキ

九 第二百六十條ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

十 民法第七十九條ノ期間内ニ或債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ第九十五條ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ分配シタルトキ

第三編 商行爲

第一章 總則

第二百六十三條 左ニ掲ケタル行爲ハ之ヲ商行爲トス

- 一 利益ヲ得テ讓渡ス意思ヲ以テスル動産不動産若クハ有價證券ノ有償取得又ハ其取得シタルモノノ讓渡ヲ目的トスル行爲
- 二 他人ヨリ取得スヘキ動産又ハ有價證券ノ供給契約及ヒ其履行ノ爲メニスル有償取得ヲ目的トスル行爲
- 三 取引所ニ於テスル取引
- 四 手形其他ノ商業證券ニ關スル行爲

第二百六十四條

左ニ掲ケタル行爲ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス但專ラ賃金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服スル者ノ行爲ハ此限ニ在ラス

- 一 賃貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ不動産ノ有償取得若クハ賃借又ハ其取得若クハ賃借シタルモノノ賃貸ヲ目的トスル行爲
- 二 他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關スル行爲
- 三 電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行爲
- 四 運送ニ關スル行爲
- 五 作業又ハ勞務ノ請負

出版、印刷又ハ撮影ニ關スル行爲

七 客ノ來集ヲ目的トス場屋ノ取引

八 兩替其他ノ銀行取引

九 保險

十 寄託ノ引受

十一 仲立又ハ取次ニ關スル行爲

十二 商行爲ノ代理ノ引受

第二百六十五條 商人カ其營業ノ爲メニスル行爲ハ之ヲ商行爲トス

商人ノ行爲ハ其營業ノ爲メニスルモノト推定ス

第二百六十六條

商行爲ノ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示ササルモト雖モ其行爲ハ本人ニ對シテ其效力ヲ生ス但相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラサリシトキハ代理人ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二百六十七條

商行爲ノ受任者ハ委任ノ本旨ニ反セサル範圍内ニ於テ委任ヲ受ケサル行爲ヲ爲スコトヲ得

第二百六十八條

商行爲ノ委任ニ因ル代理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セス

第二百六十九條

對話者間ニ於テ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ直チニ承諾

ヲ爲ササルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

第二百七十條 隔地者間ニ於テ承諾期間ノ定ナクシテ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ相當ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ發セサルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ民法第五百二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百七十一條 商人カ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク諾否ノ通知ヲ發スルコトヲ怠リタルトキハ申込ヲ承諾シタルモノト看做ス

第二百七十二條 商人カ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ申込ト共ニ受取リタル物品アルトキハ其申込ヲ拒絕シタルトキト雖モ申込者ノ費用ヲ以テ其物品ノ保管スルコトヲ要ス但其物品ノ價額カ其費用ヲ償フニ足ラサルトキ又ハ商人カ其保管ニ因リテ損害ヲ受クヘキトキハ此限ニ在ラス

第二百七十三條 數人カ其一人又ハ全員ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ債務ヲ負擔シタルトキハ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス

保證人アル場合ニ於テ債務カ主タル債務者ノ商行爲ニ因リテ生シタルトキ又ハ保證カ商行爲ナルトキハ主タル債務者及ヒ保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ保證カ商行爲ナルトキハ主タル債務者及ヒ保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス

第二百七十四條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ或行爲ヲ爲シタルトキハ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十五條 商人間ニ於テ金錢ノ消費貸借ヲ爲シタルトキハ貸主ハ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ金錢ノ立替ヲ爲シタルトキハ其立替ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十六條 商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ關シテハ法定利率ハ年六分トス

第二百七十七條 民法第三百四十九條ノ規定ハ商行爲ニ因リテ生シタル債權ヲ擔保スル爲メニ設定シタル質權ニハ之ヲ適用セス

第二百七十八條 商行爲ニ因リテ生シタル債務ノ履行ヲ爲スヘキ場所カ其行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ定マラサルトキハ特定物ノ引渡ハ行爲ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ履行ハ債權者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

指圖債權及ヒ無記名債權ノ辨濟ハ債務者ノ現時ノ營業所、若シ營業所

ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ其支店ヲ以テ營業所ト看倣ス

第二百七十九條 指圖債權又ハ無記名債權ノ債務者ハ其履行ニ付キ期限ノ定アルトキト雖モ其期限カ到來シタル後所持人カ其證券ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲シタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス

第二百八十條 第二百七十八條第二項及ヒ前條ノ規定ハ民法第四百七十一條ニ掲ケタル債權ニ之ヲ準用ス

第二百八十一條 金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖證券又ハ無記名證券ノ所持人カ其證券ヲ喪失シタル場合ニ於テ公示催告ノ申立ヲ爲シタルトキハ債務者ヲシテ其債務ノ目的物ヲ供託セシメ又ハ相當ノ擔保ヲ供シテ其債券ノ趣旨ニ從ヒ履行ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十二條 第四百四十一條、第四百五十七條、第四百六十一條及ヒ第四百六十四條ノ規定ハ金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖債權ニ之ヲ準用ス

第二百八十三條 法令又ハ慣習ニ依リ取引時間ノ定アルトキハ其取引時間内ニ限り債務ノ履行ヲ爲シ又ハ其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二百八十四條 商人間ニ於テ其雙方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ

生シタル債權カ辨濟期ニ在ルトキハ債權者ハ辨濟ヲ受クルマテ其債務者トノ間ニ於ケル商行爲ニ因リテ自己ノ占有ニ歸シタル債務者ノ所有物ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラズ

第二百八十五條 商行爲ニ因リテ生シタル債權ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス但他ノ法令ニ之ヨリ短キ時効期間ノ定アルトキハ其規定ニ從フ

第二章 賣買

第二百八十六條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滯ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

損敗シ易キ物ハ催告ヲ爲サシテ之ヲ競賣スルコトヲ得
前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス

其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス

第二百八十七條 賣買ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スル

コト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ直チニ其履行ヲ請求スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第二百八十八條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク之ヲヲ検査シ若シ之ニ瑕疵アルコト又ハ其數量ニ不足アルコトヲ發見シタルトキハ直チニ賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルニ非サレハ其瑕疵又ハ不足ニ因リテ契約ノ解除又ハ代金減額若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス賣買ノ目的物ニ直チニ發見スルコト能ハサル疵アリタル場合ニ於テ買主カ六个月内ニ之ヲ發見シタルトキ亦同シ前項ノ規定ハ賣主ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百八十九條 前條ノ場合ニ於テ賣主ハ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ賣主ノ費用ヲ以テ賣買ノ目的物ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス但其物ニ付滅失又ハ般損ノ虞アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス前項ノ規定ニ依リ買主カ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス前二項ノ規定ハ賣主及ヒ買主ノ營業所若シ營業所ナキトキハ其住所カ

市町村内ニ在ル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百九十條 前條ノ規定ハ賣主ヨリ買主ニ引渡シタル物品カ注文シタル物品ト異ナリタル場合ニ之ヲ準用ス其物品カ注文シタル數量ヲ超過シタル場合ニ於テ其超過額ニ付キ亦同シ

第三章 交互計算

第二百九十一條 交互計算ハ商人間又ハ商人ト商人ト非サル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十二條 手形其他ノ商業證券ヨリ生シタル債權債務ヲ交互計算ニ組入レタル場合ニ於テ證券ノ債務者カ辨濟ヲ爲ササリシトキハ當事者ハ其債務ニ關スル項目ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得

第二百九十三條 當事者カ相殺ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサリシトキハ其期間ハ之ヲ六个月トス

第二百九十四條 當事者カ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ノ承認ヲ爲シタルトキハ其各項目ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス但錯誤又ハ脱漏アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二百九十五條 相殺ニ因リテ生シタル殘額ニ付テハ債權者ハ計算閉鎖ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ各項目ヲ交互計算ニ組人レタル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨ケス

第二百九十六條 各當事者ハ何時ニテモ交互計算ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ計算ヲ閉鎖シテ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第四章 匿名組合

第二百九十七條 匿名組合契約ハ當事者ノ一方カ相手方ノ營業ノ爲メニ出資ヲ爲シ其營業ヨリ生スル利益ヲ分配スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十八條 匿名組合員ノ出資ハ營業者ノ財産ニ歸ス

匿名組合員ハ營業者ノ行爲ニ付キ第三者ニ對シテ權利義務ヲ有セス

第二百九十九條

匿名組合員カ其氏名若クハ氏名ヲ營業者ノ商號中ニ用井又ハ其商號ヲ營業者ノ商號トシテ用ユルコトヲ許諾シタルトキハ其使用以後ニ生シタル債務ニ付テハ營業者ト連帶シテ其責ニ任ス

第三百條 出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其填補ノ後ニ非サレハ匿名組合員ハ利益ノ配當ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百一條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メサリシトキ又ハ或當事者ノ終身間組合ノ在續スヘキコトヲ定メサルトキハ各當事者ハ營業

年度ノ終ニ於テ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但六个月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

組合ノ存續期間ヲ定メタルト否トヲ問ハス己ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第三百二條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合契約ハ左ノ事由ニ因テ終了ス

- 一 組合ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
- 二 營業者ノ死亡又ハ禁治産
- 三 營業者又ハ匿名組合員ノ破産

第三百三條 組合契約カ終了シタルトキハ營業者ハ匿名組合員ニ其出資ノ價額ヲ返還スルコトヲ要ス但出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其殘額ヲ返還スルヲ以テ足ル

第三百四條 第百八條、第百十一條及ヒ第百十五條ノ規定ハ匿名組合員ニ之ヲ準用ス

第五章 仲立營業

第三百五條 仲立人トハ他人間ノ商行爲ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ヲ

謂フ

四百二十二

第三百六條 仲立人ノ其媒介シタル行爲ニ付キ當事者ノ爲メニ支拂其他ノ給付ヲ受クルコトヲ得ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百七條 仲立人カ其媒介スル行爲ニ付キ見本ヲ受取リタルトキハ其行爲カ完了スルマテ之ヲ保管スルコトヲ要ス

第三百八條 當事者間ニ於テ行爲カ成立シタルトキハ仲立人ハ遲滞ナク各當事者ノ氏名又ハ商號行爲ノ年月日及ヒ其要領ヲ記載シタル書面ヲ作り署名ノ後之ヲ各當事者ニ交付スルコトヲ要ス

當事者カ直チニ履行ヲ爲スヘキ場合ヲ除ク外仲立人ハ各當事者ヲシテ前項ノ書面ニ署名セシメタル後之ヲ其相手方ニ交付スルコトヲ要ス
前二項ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ書面ヲ受領セス又ハ之ニ署名セサルトキハ仲立人ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
第三百九條 仲立人ハ其帳簿ニ前條第一項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

當事者ハ何時ニテモ仲立人カ自己ノ爲メニ媒介シタル行爲ニ付キ其帳簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三百十條 當事者カ其氏名又ハ商號ヲ相手方ニ示ササルヘキ旨ヲ仲立人ニ命シタルトキハ仲立人ハ第三百八條第一項ノ書面及ヒ前條第二項ノ謄本ニ其氏名又ハ商號ヲ記載スルコトヲ得ス

第三百十一條 仲立人カ當事者ノ一方ノ氏名又ハ商號ヲ其相手方ニ示ササルシトキハ之ニ對シテ自ラ履行ヲ爲ス責ニ任ス

第三百十二條 仲立人ハ第三百八條ノ手續ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

仲立人ノ報酬ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス

第六章 問屋營業

第三百十三條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百十四條 問屋ハ他人ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ因リ相手方ニ對シテ自ラ權利ヲ得義務ヲ負フ

問屋ト委託者トノ間ニ於テハ本章ノ規定ノ外委任及ヒ代理ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百十五條 問屋ハ委託者ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ付キ相手方カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ自ラ其履行ヲ爲ス責ニ任ス但別段

ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百十六條 問屋カ委託者ノ指定シタル金額ヨリ廉價ニテ販賣ヲ爲シ又ハ高價ニテ買入ヲ爲シタル場合ニ於テ自ラ其差額ヲ負擔スルトキハ其販賣又ハ買入ハ委託者ニ對シテ其效力ヲ生ス

第三百十七條 問屋カ取引所ノ相場アル物品ノ販賣又ハ買入ノ委託ヲ受ケタルトキハ自ラ買主又ハ賣主ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ賣買ノ代價ハ問屋カ買主又ハ賣主ト爲リタルコトノ通知ヲ發シタル時ニ於ケル受引所ノ相場ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テモ問屋ハ委託者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得
第三百十八條 問屋カ買入ノ委託ヲ受ケタル場合ニ於テ委託者カ買入レタル物品ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ第二百八十六條ノ規定ヲ準用ス

第三百十九條 第三十七條及ヒ第四十一條ノ規定ハ問屋ニ之ヲ準用ス
第三百二十條 本章ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ販賣又ハ買入ニ非サル行爲ヲ爲スヲ業トスル者ニ之ヲ準用ス

第七章 運送取扱營業
第三百二十一條 運送取扱人トハ自己ノ名ヲ以テ物品運送ノ取次ヲ爲ス

ヲ業トスル者ヲ謂フ運送取扱人ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外問屋ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百二十二條 運送取扱人ハ自己又ハ其使用人カ運送品ノ受取、引渡、保管、運送人又ハ他ノ運送取扱人ノ選擇其他運送ニ關スル注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延着ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百二十三條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人ニ引渡シタルトキハ直ニ其報酬ヲ請求スルコトヲ得運送取扱契約ヲ以テ運送賃ノ額ヲ定メタルトキハ運送取扱人ハ特約アルニ非サレハ別ニ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス
第三百二十四條 運送取扱人ハ運送品ニ關シ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第三百二十五條 數人相次テ運送ノ取次ヲ爲ス場合ニ於テハ後者ハ前者ニ代ハリテ其權利ヲ行使スル義務ヲ負フ
前項ノ場合ニ於テ後者カ前者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ前者ノ權利ヲ取得ス

第三百二十六條 運送取扱人カ運送人ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ運送人ノ

權利ヲ取得ス

第三百二十七條

運送取扱人ハ特約ナキトキハ自ラ運送ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ運送取扱人ハ運送人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第三百二十八條

運送取扱人ノ責任ハ荷受人カ運送品ヲ受取リタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ其引渡アルヘカリシ日ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ運送取扱人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三百二十九條

運送取扱人ノ委託者又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百三十條

第三百二十八條及ヒ第三百四十二條ノ規定ハ運送取扱業ニ之準用ス

第八章

運送營業

第三百三十一條

運送人トハ陸上又ハ湖川、港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百三十二條

荷送人ハ運送人ノ請求ニ因リ運送狀ヲ交付スルコトヲ

要ス

運送狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ荷送人之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 運送品ノ種類、重量又ハ容積及ヒ其荷造ノ種類、個數並ニ記號
- 二 到達地
- 三 荷受人ノ氏名又ハ商號
- 四 運送狀ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百三十三條

運送人ハ荷送人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ記載シ運送人之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 前條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項
- 二 荷送人ノ氏名又ハ商號
- 三 運送賃
- 四 貨物引換證ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百三十四條

貨物引換證ヲ作リタルトキハ運送ニ關スル事項ハ運送人ト所持人トノ間ニ於テハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ル

第三百三十五條

裏書ニ依リテ貨物引換證ヲ讓渡シタルトキハ運送品ノ讓渡ト同一ノ效力ヲ有ス

第三百三十六條 運送品ノ全部又ハ一部カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ其運送賃ヲ請求スルコトヲ得ス若シ運送人カ既ニ其運送賃ノ全部又ハ一部ヲ受取リタルトキハ之ヲ返還スルコトヲ要ス

運送品ノ全部又ハ一部カ其性質若クハ瑕疵又ハ運送人ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ運送賃ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第三百三十七條 運送人ハ自己若クハ運送取扱人又ハ其使用人其他運送ノ爲メ使用シタル者カ運送品ノ受取、引渡、保管及ヒ運送ニ關シ注意ヲ怠ラサルコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延着ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルコトヲ得ス

第三百三十八條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ荷送人カ運送ヲ委託スルニ當タリ其種類及ヒ價額ヲ明告シタルニ非サレハ運送人ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第三百三十九條 數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ各運送人ハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延着ニ付キ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第三百四十條 運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アルヘカリシ日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム
運送品ノ一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アリ

タル日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但延着ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

運送品ノ滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セサル運送賃其他ノ費用ハ前二項ノ賠償額ヨリ之ヲ控除ス

第三百四十一條 運送品カ運送人ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ運送人ハ一切ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第三百四十二條 荷送人又ハ貨物引換證ノ所持人ハ運送人ニ對シ運送ノ中止運送品ノ返還其他ノ處分ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應スル運送賃立替金及ヒ其處分ニ因リテ生シタル費用ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ定メタル荷送人ノ權利ハ運送品カ到達地ニ達シタル後荷受人カ其引渡ヲ請求シタルトキハ消滅ス

第三百四十三條 運送品カ到達地ニ達シタル後ハ荷受人ハ運送契約ニ因リテ生シタル荷送人ノ權利ヲ取得ス

荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送人ニ對シ運送賃其他ノ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第三百四十四條 貨物引換證ヲ作りタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サン

ハ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百四十五條 荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキハ運送人ハ運送品ヲ供託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ運送人カ荷送人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ運送品ノ處分ニ付キ指圖ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルモ荷送人カ其指圖ヲ爲ササルトキハ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

運送人カ前二項ノ規定ニ從ヒテ運送品ノ供託又ハ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百四十六條 前條ノ規定ハ運送品ノ引渡ニ關シテ爭アル場合ニ之ヲ準用ス

運送人カ競賣ヲ爲スニハ豫メ荷受人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ運送品ノ受取ヲ催告シ其期間經過ノ後更ニ荷送人ニ對スル催告ヲ爲スコトヲ要ス運送人ハ遲滞ナク荷受人ニ對シテモ運送品ノ供託又ハ競賣ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百四十七條 第二百八十六條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十八條 運送人ノ責任ハ荷受人カ留保ヲ爲サスシテ運送品ヲ受

取り且運送賃其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但運送品ニ直チニ發見スルコト能ハサル毀損又ハ一部滅失アリタル場合ニ於テ荷受人カ引渡ノ日ヨリ二週間内ニ運送人ニ對シテ其通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ準用セス

第三百四十九條 第三百二十四條、第三百二十五條、第三百二十八條及ヒ第三百二十九條ノ規定ハ運送人ニ之ヲ準用ス

第二節 旅客運送

第三百五十條 旅客ノ運送人ハ自己又ハ其使用人カ運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ旅客カ運送ノ爲メニ受ケタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

損害償賠ノ額ヲ定ムルニ付テハ裁判所ハ被害者及ヒ其家族ノ情況ヲ斟酌スルコトヲ要ス

第三百五十一條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケタル手荷物ニ付テハ特ニ運送賃ヲ請求セサルモ雖モ物品ノ運送人ト同一ノ責任ヲ負フ手荷物カ到達地ニ達シタル日ヨリ一週間内ニ旅客カ其引渡ヲ請求セサルトキハ**第二百八十六條**ノ規定ヲ準用ス但住所又ハ居所ノ知レタル旅客ニハ催告及ヒ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五十二條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケタル手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ自己又ハ其使用人ニ過失アル場合ヲ除ク外損害賠償ノ責ニ任セス

第九章 寄託

第一節 總則

第三百五十三條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキトモ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五十四條 旅店、飲食店、浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス
客カ特ニ寄託セサル物品ト雖モ場屋中ニ携帶シタル物品カ場屋ノ主人又ハ其使用人ノ不注意ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ場屋ノ主人ハ損害賠償ノ責ニ任ス

客ノ携帶品ニ付キ責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シタルトキト雖モ場屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百五十五條 貨幣有價證券其他ノ高價品ニ付テハ客カ其種類及價額ヲ明告シテ之ヲ前條ノ場屋ノ主人ニ寄託シタルニ非サレハ其場屋ノ主人

人ハ其物品ノ滅失又毀損ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス
第三百五十六條 前二條ノ責任ハ場屋ノ主人カ寄託物ヲ返還シ又ハ客カ携帶品ヲ持去リタル後一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
前項ノ期間ハ物品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ客カ場屋ヲ去リタル時ヨリ之ヲ起算ス
前二項ノ規定ハ場屋ノ主人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用ス

第二節 倉庫營業

第三百五十七條 倉庫營業者トハ他人ノ爲メニ物品ヲ倉庫ニ保管スルヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百五十八條 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求ニ因リ寄託物ノ預證券及ヒ質入證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第三百五十九條 預證券及ヒ質入證券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ倉庫營業者之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 受寄物ノ種類、品質、量數及ヒ其荷造ノ種類、個數並ニ記號
- 二 寄託者ノ氏名又ハ商號
- 三 保管ノ場所
- 四 保管料

五 保管ノ期間ヲ定メタルトキハ其期間
六 受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ保險金額、保險期間及ヒ保險者ノ氏名又ハ商號

七 證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百六十條 倉庫營業者カ預證券及ヒ質入證券ヲ寄託者ニ交付シタルトキハ其帳簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 前條第一號、第二號及ヒ第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項
- 二 證券ノ番號及ヒ其作成ノ年月日

第三百六十一條 預證券及ヒ質入證券ノ所持人ハ倉庫營業者ニ對シ寄託物ヲ分割シ且其各部分ニ對ス預證券及ヒ質入證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ所持人ハ前ノ預證券及ヒ質入證券ヲ倉庫營業者ニ返還スルコトヲ要ス

前項ニ定メタル寄託者ノ分割及ヒ證券ノ交付ニ關スル費用ハ所持人之ヲ負擔ス

第三百六十二條 預證券及ヒ質入證券ヲ作りタルトキハ寄託ニ關スル事項ハ倉庫營業者ト所持人トノ間ニ於テハ其證券ノ定ムル所ニ依ル

第三百六十三條 預證券及ヒ質入證券ヲ作りタルトキハ寄託物ニ關スル

處分ハ其證券ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百六十四條 預證券及ヒ質入證券ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ質入スルコトヲ得但證券ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

預證券ノ所持人カ未タ質入ヲ爲ササル間ハ預證券及ヒ質入證券ハ各別ニ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第三百六十五條 第三百三十五條ノ規定ハ預證券ニ之ヲ準用ス

第三百六十六條 預證券又ハ質入證券カ滅失シタルトキハ其所持人ハ相當ノ擔保ヲ供シテ更ニ其證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ倉庫營業者ハ其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百六十七條 質入證券ニ第一ノ質入裏書ヲ爲スニハ債權額、其利息及ヒ辨濟期ヲ記載スルコトヲ要ス

第一ノ質權者カ前項ニ掲ケタル事項ヲ預證券ニ記載シテ之ニ署名スルニ非サレハ質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十八條 質入證券ノ所得人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサルトキハ手形ニ關スル規定ニ從ヒテ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス
第三百六十九條 質入證券ノ所持人ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ一週間ヲ經

過シタル後ニ非サレハ寄託物ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百七十條 倉庫營業者ハ競賣代金ノ中ヨリ競賣ニ關スル費用、受寄

物ニ課スヘキ租税、保管料其他保管ニ關スル費用及ヒ立替金ヲ控除シ

タル後其殘額ヲ質入證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

競賣代金ノ中ヨリ前項ニ掲ケタル費用、租税、保管料、立替金及ヒ質入

証券所持人ノ債權額、利息、拒絶證書作成ノ費用ヲ控除シタル後餘剩

アル片ハ倉庫營業者ハ之ヲ預證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

第三百七十一條 競賣代金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ全部ヲ辨

濟スルコト能ハサリシトキハ倉庫營業者ハ其支拂ヒタル金額ヲ質入證

券ニ記載シテ其証券ヲ返還シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百七十二條 質入証券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ

不足アルキハ債務者其他ノ裏書人ニ對シテ其不足額ヲ請求スルコトヲ得

第三百七十三條 質入証券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受サリシ場合

ニ於テ拒絶證書ヲ作ラシメサリシ片ハ又ハ拒絶證書作成ノ日ヨリ二週

間内ニ寄託物ノ競賣ヲ請求セサリシ片ハ裏書人ニ對スル請求權ヲ失フ

第三百七十四條 債務者其他ノ裏書人ニ對スル質入証券所持人ノ請求權

ハ辨濟期ヨリ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百七十五條 寄託者又ハ預證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉

庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢若クハ其見本ノ摘出ヲ求メ又ハ其保存

ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得質入證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニ

テモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢ヲ求ムルコトヲ得

第三百七十六條 倉庫營業者ハ自己又ハ其使用人カ受寄物保管ニ關シ注

意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其滅失又ハ毀損ニ付キ損害

賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百七十七條 倉庫營業者ハ受寄物出庫ノ時ニ非サレハ報酬及ヒ立替

金其他受寄物ニ關スル費用ヲ支拂ヲ請求スルコトヲ得但受寄物ノ一

部出庫ノ場合ニ於テハ割合ニ應シテ其支拂ヲ請求スルコトヲ得

第三百七十八條 當事者カ保管ノ期間ヲ定メサリシトキハ倉庫營業者ハ

受寄物入庫ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタル後ニ非サレハ其返還ヲ爲スコ

トヲ得ス但已ムコトヲ得サル事由アルトキハ此限ニ在ラス

第三百七十九條 預證券及ヒ質入證券ヲ作リタル場合ニ於テハ之ト引換

ニ非サレハ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百八十條 預證券ノ所持人ハ質入證券ニ記載シタル債權ノ辨濟期前

ト雖モ其債權ノ全額及ヒ辨濟期マテノ利息ヲ倉庫營業者ニ供託シテ寄

託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ規定ニ從ヒテ供託シタル金額ハ質入證券ト引換ニ之ヲ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

第三百八十一條

第二百八十六條ノ規定ハ寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第三百八十二條

第三百四十八條ノ規定ハ倉庫營業者ニ之ヲ準用ス

第三百八十三條

寄託物ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル倉庫營業者ノ責任ハ出庫ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ寄託物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ倉庫營業者カ預証券ノ所持人、若シ其所持人カ知レサルトキハ寄託者ニ對シテ其滅失ヲ通知ヲ發シタル日ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ倉庫營業者ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ準用ス

第十章 保險

第一節 損害保險

第一款 總則

第三百八十四條

損害保險契約ハ當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其

報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十五條

保險契約ハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ニ限り之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第三百八十六條

保險金額カ保險契約ノ目的ノ價額ニ超過シタルトキハ其超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無効トス

第三百八十七條

同一ノ目的ニ付キ同時ニ數個ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其保險金額カ保險價額ニ超過シタルトキハ各保險者ノ負擔額ハ其各自ノ保險金額ノ割合ニ依リテ之ヲ定ム數個ノ保險契約ノ日附カ

同一ナルトキハ其契約ハ同時ニ爲シタルモノト推定ス

第三百八十八條

相次テ數個ノ保險契約ヲ爲シタルトキハ前ノ保險者先ツ損害ヲ負擔シ若シ其負擔額カ損害ノ全部ヲ填補スルニ足ラサルトキハ後ノ保險者之ヲ負擔ス

第三百八十九條

保險價額ノ全部ヲ保險ニ付シタル後ト雖モ左ノ場合ニ限り更ニ保險契約ヲ爲スコトヲ得

- 一 前ノ保險者ニ對スル權利ヲ後ノ保險者ニ讓渡スコトヲ約シタルトキ
- 二 前ノ保險者ニ對スル權利ノ全部又ハ一部ヲ拋棄スヘキコトヲ後

ノ保險者ニ約シタルトキ

三 前ノ保險者カ損害ノ填補ヲ爲ササルコトヲ條件トシタルトキ

第三百九十條 同時ニ又ハ相次テ數個ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ

保險者ノ一人ニ對スル權利ノ拋棄ハ他ノ保險者ノ權利義務ニ影響ヲ及

ホサス

第三百九十一條 保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者

ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第三百九十二條 保險價額カ保險期間中著シル減少シタルトキトハ保險

契約者ハ保險者ニ對シテ保險金額及ヒ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ

得但保險料ノ減額ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

第三百九十三條 保險者カ填補スヘキ損害ノ額ハ其損害カ生シタル地ニ

於ケル其時ノ價額ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ損害額ヲ計算スルニ必要ナル費用ハ保險者之ヲ負擔ス

第三百九十四條 當事者カ保險價額ヲ定メタルトキハ保險者ハ其價額ノ

著シク過當ナルコトヲ証明スルニ非サレハ其填補額ノ減少ヲ請求スル

コトヲ得ス

第三百九十五條 戰爭其他ノ變亂ニ因リテ生シタル損害ハ特約アルニ非

サレハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

第三百九十六條 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵其自然ノ消耗又ハ保險契

約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

第三百九十七條 保險契約ノ當時當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生

セサルヘキコト又ハ既ニ生シタルコトヲ知レル片ハ其契約ハ無効トス

第三百九十八條 保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ

因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケ

タルトキハ其契約ハ無効トス但保險者カ其事實ヲ知り又ハ之ヲ知ルコ

トヲ得ヘカリシトキハ此限ニ在ラス

第三百九十九條 保險契約ノ全部又ハ一部カ無効ナル場合ニ於テ保險契

約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ保險者ニ對

シテ保險料ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四百條 保險契約ノ當事者カ特別ノ危險ヲ斟酌シテ保險料ノ額

ヲ定メタル場合ニ於テ保險期間中其危險カ消滅シタルトキハ保險契約

者ハ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

第四百一條 保險契約ハ他人ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ

ハ保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第四百二條 保險契約者カ委任ヲ受ケスシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨ヲ保險者ニ告ケサルトキ其契約ハ無効トス若シ之ヲ告ケタルトキハ被保險者ハ當然其契約ノ利益ヲ享受ス

第四百三條 保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險證券ヲ交付スルコトヲ要ス

保險證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ保險者之ヲ署名スルコトヲ要ス

- 一 保險ノ目的
- 二 保險者ノ負擔シタル危險
- 三 保險價額ヲ定メタルトキハ其價額
- 四 保險金額
- 五 保險料及ヒ其支拂ノ方法
- 六 保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期
- 七 保險契約者ノ氏名又ハ商號
- 八 保險契約ノ年月日
- 九 保險證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第四百四條 被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ同時ニ保險契約

ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルモノト推定ス

前項ノ場合ニ於テ保險ノ目的ノ讓渡カ著シク危險ヲ變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第四百五條 保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ相當ノ擔保ヲ供セシメ又ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ保險契約者カ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前二項ノ規定ハ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス但シ保險契約者カ既ニ保險料ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ此限ニ在ラス

第四百六條 他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險者ハ被保險者ニ對シテ保險料ヲ請求スルコトヲ得但被保險者カ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百七條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テハ保險契約者ハ契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第四百八條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラスシテ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ就キ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險カ生セサルニ至リタルトキハ保險者ハ保險料ノ全部又ハ一

部ヲ返還スルコトヲ要ス

第四百九條 前二條ノ場合ニ於テハ保險者ハ其返還スヘキ保險料ノ半額ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得

第四百十條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第四百十一條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但し其解除ハ將來ニ向フノミ其效力ヲ生ス

前項ノ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ危險ノ著シク變更又ハ増加シタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク之ヲ保險者ニ通知スルコトヲ要ス若シ其通知ヲ怠リタルトキハ保險者ハ危險ノ變更又ハ増加ノ時ヨリ保險契約カ其效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得

保險者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ危險ノ變更若クハ増加ヲ知リタル後遲滯ナク契約ノ解除ヲ爲ササルトキハ其契約ヲ承認シタルモノト看做ス

第四百十二條 保險者ノ負擔シタル危險ノ發生ニ因リテ損害カ生シタル場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其損害ノ生シタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百十三條 保險ノ目的ニ付キ保險者ノ負擔スヘキ損害カ生シタルトキハ其後ニ至リ其目的カ保險者ノ負擔セサル保險ノ發生ニ因リテ滅失シタルトキト雖モ保險者ハ其損害ヲ填補スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百十四條 被保險者ハ損害ノ防止ヲカムルコトヲ要ス但之カ爲メニ必要又ハ有益ナリシ費用及ヒ填補額カ保險金額ニ超過スルトキト雖モ保險者之ヲ負擔ス

第三百九十一條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百十五條 保險ノ目的ノ全部カ滅失シタル場合ニ於テ保險者カ保險金額ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ被保險者カ其目的ニ付キ有セル權利ヲ取得ス但し保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ權利ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第四百十六條 損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ヲ支拂ヒタルハ其支拂ヒタル金額ノ限度ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ第三者ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ノ一部ヲ支拂ヒタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ノ權利ヲ害セザル範圍内ニ於テノミ前項ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第四百十七條 保險金額支拂ノ義務ハ二年保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第四百十八條 本節ノ規定ハ相互保險ニ之ヲ準用ス但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二款 火災保險

第四百十九條 火災ニ因リテ生シタル損害ハ其火災ノ原因如何ヲ問ハス保險者之ヲ填補スル責ニ要ス但第三百九十五條及ヒ第三百九十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第四百二十條 消防又ハ避難ニ必要ナル處分ニ因リ保險ノ目的ニ付キ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任ス

第四百二十一條 賃借人其他人ノ物ヲ保管スル者カ其支拂フコトアルヘキ損害賠償ノ爲メ其物ヲ保險ニ付シタルトキハ所有者ハ保險者ニ對シテ直接ニ其損害ノ填補ヲ請求スルコトヲ得

第四百二十二條 火災保險証券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 保險ニ付シタル建物ノ所在、構造及ヒ用方
- 二 動産ヲ保險ニ付シタルトキハ之ヲ納ルル建物ノ所在、構造及ヒ

用方

詳三款 運送保險

第四百二十三條 保險者ハ特約ナキトキハ運送人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之ヲ荷受人ニ引渡ス時マテニ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第四百二十四條 運送品ノ保險ニ付テハ發送ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ到達地マテノ運送賃其他ノ費用ヲ以テ保險價額トス

運送品ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益ハ特約アルトキニ限り之ヲ保險價額中ニ算入ス

第四百二十五條 運送保險証券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 運送ノ道筋及ヒ方法
- 二 運送人ノ氏名又ハ商號
- 三 運送品ノ受取及ヒ引渡ノ場所
- 四 運送期間ノ定アルトキハ其期間

第四百二十六條 保險契約ハ特約アルニ非サレハ運送上ノ必要ニ因リ一時運送ヲ中止シ又ハ運送ノ道筋若クハ方法ヲ變更シタルトキト雖モ其

效力ヲ失ハス

第二節 生命保險

第四百二十七條 生命保險契約ハ當事者ノ一方カ相手方又ハ第三者ノ生死ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十八條 保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者、其相續人又ハ親族ナルコトヲ要ス保險契約ニ因リテ生シタル權利ハ被保險者ノ親族ニ限リ之ヲ讓受クルコトヲ得

保險金額ノ受取ルヘキ者カ死亡シタルトキ又ハ被保險者ト保險金額ヲ受取ルヘキ者トノ親族關係カ止ミタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メ又ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

保險契約者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ被保險者ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス

第四百二十九條 保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ其契約ハ無効トス但保險者カ其事實ヲ知り又

ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ此限ニ在ラス

第四百三十條 生命保險証券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 保險契約ノ種類
- 二 被保險者ノ氏名
- 三 保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタルトキハ其者ノ氏名及ヒ其者ト被保險者トノ親族關係

第四百三十一條 左ノ場合ニ於テ保險者ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス
一 被保險者カ自殺決闘其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ

- 二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ但其者カ保險金額ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニ於テハ保險者ハ其殘額ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス

前項第一號ノ場合ニ於テハ保險者被保險者ノ爲メ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第四百三十二條 保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ノ死亡シタルコトヲ知りタルトキハ遲滯ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發

スルコトヲ要ス

四百五十六

第四百三十二條 第三百九十五條、第三百九十七條、第三百九十九條乃至第四百一條、第四百三條第一項、第四百五條乃至第四百七條、第四百十條、第四百十一條、第四百十七條及ヒ第四百十八條ノ規定ハ生命保險ニ之ヲ準用ス

第三百九十五條、第四百五條、第四百七條、第四百十條及ヒ第四百十一條ノ場合ニ於テ保險者カ保險金額ヲ支拂フコトヲ要セサルトキハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第四編 手形

第一章 總則

第四百三十四條 本法ニ於テ手形トハ爲替手形、約束手形及ヒ小切手ヲ謂フ

第四百三十五條 手形ニ署名シタル者ハ其手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負

第四百三十六條 代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ記載セスシテ手形ニ署名シタルトキハ本人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百三十七條 偽造又ハ變造シタル手形ニ署名シタル者ハ其爲造又ハ

造シタル手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

變造シタル手形ニ署名シタル者ハ變造前ニ署名シタルモノト推定ス

偽造者、變造者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ偽造又ハ變造シタル手形ヲ取得シタル者ハ手形上ノ權利ヲ有セス

第四百三十八條 無能力者カ手形ヨリ生シタル債務ヲ取得シタルト雖モ他ノ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ホサス

第四百三十九條 本編ニ規定ナキ事項ハ之ヲ手形ニ記載スルモ手形上ノ效力ヲ生セス

第四百四十條 手形ノ債務者ハ本編ニ規定ナキ事由ヲ以テ手形上ノ請求ヲ爲ス者ニ對抗スルコトヲ得ス但直接ニ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ハ此限ニ在ラス

第四百四十一條 何人ト雖モ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ手形ヲ取得シタル者ニ對シ其手形ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百四十二條 手形ノ引受又ハ支拂ヲ求ムル爲メニスル呈示、拒絕證書ノ作成其他手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ付キ利害關係人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ其營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所又ハ居所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但其者ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲

スコトヲ妨ケス利害關係人ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ拒絶證書ヲ作ルヘキ公證人又ハ執達吏又其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ要ス若シ問合ヲ爲スモ營業所住所又ハ居所カ知レサルトキハ其役場又ハ官署若クハ公署ニ於テ拒絶證書ヲ作ルコトヲ得

第四百四十三條 引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對スル債權ハ滿期日ヨリ三年所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絶證書作成ノ日ヨリ六個月裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第四百四十四條 手形ヨリ生シタル債權カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人又ハ引受人ニ對シ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章 爲替手形
第一節 振出
第四百四十五條 爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 其爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額
- 三 支拂人ノ氏名又ハ商號
- 四 受取人ノ氏名又ハ商號
- 五 單純ナル支拂ノ委託
- 六 振出ノ年月日
- 七 一定ノ滿期日
- 八 支拂地

第四百四十六條 爲替手形ノ主タル部分ニ記載シタル金額カ他ノ部分ニ記載シタル金額ト異ナルトキハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形金額トス

第四百四十七條 振出人ハ自己ヲ受取人又ハ支拂人ト定ムルコトヲ得

第四百四十八條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百四十九條 爲替手形ハ其金額三十圓以上ノモノニ限り之ヲ無記名式ト爲スコトヲ得

第四百五十條 滿期日ハ左ニ掲ケタル種類ノ一タルコトヲ要ス
一 確定セル日
二 日附後確定セル期間ヲ經過シタル日

三一覽ノ日

四 一覽後確定セル期間ヲ經過シタル日

第四百五十一條 振出人カ爲替手形ニ滿期日ヲ記載セサリシトキハ一覽ノ日ヲ以テ其爲替手形ノ滿期日トス

第四百五十二條 振出人カ爲替手形ニ支拂地ヲ記載セサリシトキハ其爲替手形ニ記載シタル支拂人ノ住所地ヲ以テ其支拂地トス

第四百五十三條 支拂地カ支拂人ノ住所地下異ナルトキハ他人ヲ以テ支拂擔當者トシテ爲替手形ニ記載スルコトヲ得

第四百五十四條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第二節 裏書

第四百五十五條 爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但振出人カ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十六條 振出人、引受人又ハ裏書人カ裏書ニ依リテ爲替手形ヲ讓受ケタルトキハ更ニ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十七條 裏書ハ爲替手形其謄本又ハ補箋ニ被裏書人ノ氏名又ハ

商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ爾後爲替手形ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十八條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百五十九條 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得

第四百六十條 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ其裏書人ハ被裏書人ノ後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百六十一條 裏書人カ其署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタルトキハ所持人ハ自己ヲ其被裏書人ト爲スコトヲ得

第四百六十二條 支拂拒絶證書作成ノ期間經過ノ後所持人カ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス此場合ニ於テハ其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百六十三條 所持人ハ裏書ニ依リテ爲替手形ノ質入ヲ爲シ又ハ其取立ノ委任ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ裏書ニ其目的ヲ附記スルコト

ヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ被裏書人ハ同一ノ目的ヲ以テ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得
第四百六十四條 裏書アル爲替手形ノ所持人ハ其裏書カ連續スルニ非サ
レハ其權利ヲ行フコトヲ得ス但署名ノミヲ以テ爲シタル裏書アルトキ
ハ次ノ裏書人ハ其裏書ニ依リテ爲替手形ヲ取得シタルモノト看做ス

第三節 引受

第四百六十五條 所持人ハ何時ニテモ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引
受ヲ求ムルコトヲ得

第四百六十六條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內
ニ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ
之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セ
サルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百六十七條 所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ呈示シタル場合ニ
於テ支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セサリ
シトキハ所持人ハ呈示期間內ニ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場
合ニ於テハ其拒絕證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權
利ヲ失フ

引受人カ引受ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ヲ作
ラシメサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第四百六十八條 引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ支拂人署名スルニ依リ
テ之ヲ爲ス

支拂人カ爲替手形ニ署名シタルトキハ其引受ヲ爲シタルモノト看做ス
第四百六十九條 支拂人ハ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除ク外支拂人ノ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ其ノ引
受ヲ拒絕シタルモノト看做ス但シ引受人ハ其ノ引受ノ文言ニ從ヒテ責
任ヲ負フ

第四百七十條 支拂人ハ爲替手形ノ引受ニ因リ滿期日ニ於テ其引受ケ
タル金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第四百七十一條 引受人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシ場合ニ於テ其所
持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ金額
ハ第四百九十一條又ハ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第四百七十二條 支拂地カ支拂人ノ住所地ト異ナル場合ニ於テ振出人カ

爲替手形ニ支拂擔當者ヲ記載セサリシトキハ支拂人ハ其引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得若シ支拂人カ之ヲ記載セサリシトキハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス責ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ振出人ハ爲替手形ニ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得此場合於ニテ所持人カ拒絕證書ニ依リ其呈示ヲ爲シタルコトヲ証明セサルハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ
第四百七十三條 支拂人ハ引受ヲ爲スニ當タリ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第四節 擔保ノ請求

第四百七十四條 支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得支拂人カ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲シタルトキハ所持人ハ其殘額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十五條 爲替手形ノ所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ引受拒絕證書ヲ作ラシメ且擔保ヲ供セシメント欲スル者ニ對シ遲滯ナク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百七十六條 裏書人カ其後者ヨリ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其前者ニ對シ其擔保スヘキ金錢及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ裏書人ハ擔保ヲ供セシメント欲スル者ニ對シ遲滯ナク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百七十七條 前三條ノ規定ニ依リテ擔保ノ請求ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク引受拒絕證書ト引換ニ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但擔保ニ代ヘテ相當ノ金額ヲ供託スルコトヲ得

第四百七十八條 前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其後者全員ノ爲メ且其後者全員ニ對シテ之ヲ爲シタルモノト看做ス
所持人又ハ裏書人カ第四百七十五條又ハ第四百七十六條第二項ノ通知ヲ發シタルトキハ其通知ヲ受クル者ノ後者全員ノ爲メニシタルモノト看做ス

第四百七十九條 左ノ場合ニ於テハ第四百七十七條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得
一 後日ニ至リ爲替手形ノ單純ナル引受アリタルトキ
二 手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタルトキ
三 擔保ヲ供シ若クハ供託ヲ爲シタル者又ハ其前者カ償還ヲ爲シタルトキ

四 手形上ノ權利カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキ
五 擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ滿期日ヨリ一年內ニ償還ノ
請求ヲ受ケサリシトキ

第四百八十條 引受人カ營産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ擔保
ヲ供セサルハ所持人ハ豫備支拂人ノ引受ヲ求ムルコトヲ得但拒絕證書
ヲ作ラシメ且遲滞ナク豫備支拂人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
豫備支拂人ナキトキ又ハ豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキ
ハ所持人ハ其前者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於
テハ第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規定ヲ準用ス

第四百八十一條 左ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ニ依リテ供シタル
擔保ハ其效力ヲ失ヒ又ハ供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得
一 豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ
二 引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ
三 第四百七十九條第二號乃至第五號ノ場合

第五節 支拂

第四百八十二條 一覽拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替
手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示

期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セ
ルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百八十三條 支拂ハ爲替手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコト要セス
支拂ヲ爲ス者ハ所持人ヲシテ爲替手形ニ其支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セ
シメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

第四百八十四條 手形金額ノ全部ニ付キ引受アリタルトキハ雖モ所持人
ハ其一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス
一部ノ支拂アリタルトキハ所持人ハ其旨ヲ爲替手形ニ記載シ且其謄本
ヲ作り署名ノ後之ヲ交付スルコトヲ要ス

第四百八十五條 爲替手形ノ支拂ノ請求ナキトキハ引受人ハ支拂拒絕証
書作成ノ期間經過ノ後手形金額ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得
第六節 償還ノ請求

第四百八十六條 支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ
其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百八十七條 所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂ヲ求
ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ、若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ

満期日又ハ其後二日以内ニ支拂絶拒證書ヲ作ラシメ且償還ヲ爲サシメン
ト欲ス者ニ對シ拒絶證書作成ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコ
トヲ要ス所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對
スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百八十八條 裏書人カ其後者ヨリ前條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキ
ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裏書人ハ償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ自己カ
通知ヲ受ケタル日ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百八十九條 爲替手形ノ所持人ハ支拂絶拒證書ヲ作ラシサリシトキ
ト雖モ其作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ失フコトナシ
所持人カ支拂絶拒證書ヲ作ラシメサリシトキハ其作成ヲ免除シタル者
ト雖モ其費用ヲ償還スル義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百九十條 支拂地カ支拂人ノ住所地下異ナル場合ニ於テ所持人カ
償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂擔當者ニ、若シ爲替手形ニ支
拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於テ支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ
其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス此場合ニ於テ支拂擔當者又ハ支拂人カ支拂
ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ支拂地ニ於テ第四百八十七條第一項ノ

規定ニ從ヒ支拂絶拒證書ヲ作ラシメ且償還請求ヲ發スルコトヲ要ス
爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ於テ所持人カ前項ニ定メタル
手續ヲ爲ササリシトキハ引受人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ失フ

第四百九十一條 爲替手形ノ所持人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲ス
コトヲ得

一 支拂アラサリシ手形金額及ヒ満期日以後ノ法定利息

二 拒絶証書作成ノ手数料其他ノ費用

前項ノ金額ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地カ支拂地下異ナル場合ニ
於テハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地ニ宛テ振出シタル一
覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ之ヲ計算ス若シ支拂地ニ於テ其相場ナ
キトキハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地ニ最モ近キ地ニ宛テ振出シタ
ル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依ル

第四百九十二條 償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ
請求ヲ爲スコトヲ得

一 其支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息

二 其支出シタル費用

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百九十三條 爲替手形ノ所持人又ハ裏書人ハ償還ノ請求ヲ爲ス爲メ其前者ヲ支拂人トシテ更ニ爲替手形ヲ振出スコトヲ得

第四百九十四條 所持人又ハ裏書人カ前條ノ規定ニ依リテ振出ス爲替手形ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地ヲ以テ其支拂地ト定メタル一覽拂ノモノタルコトヲ要ス

所持人カ振出ス爲替手形ニハ本爲替手形ノ支拂地ヲ以テ振出地ト定メ裏書人カ振出ス爲替手形ニハ其住所地ヲ以テ振出地ト定ムルコトヲ要ス
第四百九十五條 償還ハ爲替手形支拂拒絶証書及ヒ償還計算書ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス

償還ヲ爲ス者ハ之ヲ受クル者ヲシテ償還計算書ニ償還ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

第四百九十六條 第四百九十八條第二項規定ハ償還ノ請求ニ之ヲ準用ス

第七節 保証

第四百九十七條 爲替手形ヨリ生シタル債務ヲ保証スル爲メ爲替手形、其原本又ハ補箋ニ署名シタル者ハ其債務カ無効ナルトキト雖モ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フ

第四百九十八條 何人ノ爲メニ保証ヲ爲シタルカ分明ナラサルトキハ其保証ハ引受人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス但未タ引受アラサリシトキハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百九十九條 保証人カ其債務ヲ履行シタルトキハ所持人カ主タル債務者ニ對シテ有セシ權利及ヒ債務者カ其前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ取得ス

第八節 參加

第一款 參加引受

第五百條 爲替手形ノ所持人カ引受拒絶証書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人アルトキハ其豫備支拂人ニ引受ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得ス

豫備支拂人カ引受ヲ爲ササリトキハ所持人ハ其旨ヲ引受拒絶證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

第五百一條 爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人ニ非サル者ノ參加引受ヲ拒ムコトヲ得

第五百二條 參加引受ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ其選擇ニ從ヒ其一人ヲシテ引受ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百三條 參加引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ參加引受人署名スルニ

依リテ之ヲ爲ス

參加引受人カ爲替手形ニ被參加人ヲ定メサリシトキハ其引受ハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百四條

所持人ハ引受拒絶證書ニ參加引受アリタル旨ヲ記載セシメ且其證書作成ノ費用ノ支拂ト引換ニ之ヲ參加引受人ニ交付スルコト要ス

第四百五條

參加引受人ハ遲滞ナク前項ノ拒絶證書ヲ被參加人ニ送付スルコト要ス
テ被參加人ノ後者ニ對シ支拂アラサル手形金額及ヒ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ但所持人カ滿期日又ハ其後二日內支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ

第四百六條

爲替手形ノ所持人其他被參加人ノ後者ハ參加引受ニ因リテ擔保ヲ請求スル權利ヲ失フ

第四百七條

被參加人ハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十五條乃至第四百七十九條ノ規定ヲ準用ス

第四百八條

爲替手形ノ所持人カ支拂拒絶證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ所持人ハ滿期日又ハ其後二日

內ニ參加引受人ニ若シ參加引受人ナキトキ又ハ參加引受人カ支拂ヲ爲

ササリシキハ豫備支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求メタル後ニ

非サレハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

參加引受人又ハ豫備支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ

支拂拒絶證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

所持人カ前二項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ヲ指定

シタル者又ハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百九條

爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル者ノ參加人ト雖モ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百十條

參加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ最モ多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レシムル效力ヲ有スル支拂ヲ受クルコトヲ要ス

第五百十一條

豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル參加支拂人カ被參加人ヲ示ササリシキハ其支拂ハ支拂人ノ爲メニ之ヲ爲タルモノト看做ス

第五百十二條

所持人ハ支拂拒絶證書ニ參加支拂アリタル旨ヲ記載セシメ且手形金額及ヒ費用ノ支拂ト引換ニ其拒絶證書及ヒ爲替手形ヲ參加

支拂人ニ交付スルコトヲ要ス

第五百十三條 參加支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキハ引受人被參加人及ヒ其前者ニ對スル所持人ノ權利ヲ取得ス

第九節 拒絶證書

第五百十四條 拒絶證書ハ爲替手形ノ所持人ノ請求ニ因リ公證人又ハ執達吏之ヲ作ル

第五百十五條 拒絶證書ハ左ノ事項ヲ記載シ公證人又ハ執達吏之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 爲替手形、其謄本及ヒ補箋ニ記載シタル事項
- 二 拒絶證書及ヒ被拒絶者ノ氏名又ハ商號
- 三 拒絶者ニ對シテ爲シタル請求ノ趣旨及ヒ拒絶者カ其請求ニ應セザリシコト又ハ拒絶者ニ面會スルコト能ハサリシ理由
- 四 前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日
- 五 拒絶者ノ營業所住所又ハ居所カ知レサル場合ニ於テ其他ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲シタルコト
- 六 法定ノ場所外ニ於テ拒絶證書ヲ作ルトキハ拒絶者カ之ヲ承諾シタルコト

七 參加引受又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ種類及ヒ參加人竝ニ被參加人ノ氏名又ハ商號

第五百十六條 數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スヘキトキハ其請求ニ付キ一通ノ拒絶證書ヲ作ラシムルヲ以テ足ル

第五百十七條 公證人又ハ執達吏カ拒絶證書ヲ作りタルトキハ其帳簿ニ其證書ノ全文ヲ記載スルコトヲ要ス

拒絶證書カ滅失シタルトキハ利害關係人ハ其謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此謄本ハ原本ト同一ノ效力ヲ有ス

第十節 爲替手形ノ複本及ヒ謄本

第五百十八條 爲替手形ノ所持人ハ振出人ニ對シテ其爲替手形ノ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但所持人カ受取人ニ非サルトキハ順次ニ其前者ヲ經由シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス
振出人カ爲替手形ノ複本ヲ作りタルトキハ各裏書人ハ各通ニ其裏書ヲ爲スコトヲ要ス

第五百十九條 爲替手形ノ複本ニ其複本タルコトヲ示ササルトキハ其各通ハ獨立ノ爲替手形トシテ其效力ヲ有ス

第五百二十條 爲替手形ノ複本ヲ作りタル場合ニ於テ其一通ノ支拂アリ

タルトキハ他ノ各通ハ其效力ヲ失フ但引受アルモノハ此限ニ在ラス
二人以上ニ各別ニ數通ノ爲替手形ノ裏書ヲ爲シタル者又ハ數通ノ爲替
手形ニ引受ヲ爲シタル者ハ支拂ノ時ニ於テ返還アラサリシ各通ニ付キ
手形上ノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第五百二十一條 爲替手形ノ複本ノ所持人カ引受ヲ求ムル爲メ其一通ヲ
送付シタルトキハ他ノ各通ニ其送付先ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ記載アル爲替手形ノ所持人ハ引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル
通ノ爲替手形ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得若シ
其者カ之ヲ返還セサルハ拒絶證書ニ依リ其事實及ヒ他ノ一通又ハ數
通ノ爲替手形ヲ以テ引受又ハ支拂ヲ受クルコト能ハサリシコトヲ證明ス
ルニ非サレハ其前者ニ對シテ擔保又ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百二十二條 爲替手形ノ所持人ハ其謄本ヲ作ルコトヲ得
爲替手形ノ謄本ニ或事項ヲ記載シタルトキハ其事項ト原本ニ記載シタ
ル事項トヲ區別スルコトヲ得ス

第五百二十三條 所持人カ爲替手形ノ引受ヲ求ムル爲メ其原本ヲ送付シ
タル場合ニ於テ其謄本ヲ形リタルトキハ之ニ其原本ノ送付先ヲ記載ス
ルコトヲ要ス

前項ノ記載アル謄本ノ所持人ハ原本ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ
請求スルコトヲ得

第五百二十四條 引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル爲替手形ヲ受取リタル
者カ之ヲ返還セサル場合ニ於テ其謄本ノ所持人カ拒絶證書ニ依リテ其
事實ヲ證明スルハ謄本ニ署名シタル者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シ又
ハ謄本ニ記載シタル滿期日カ到來シタル後ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三章 約束手形

第五百二十五條 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名スルコ
トヲ要ス

- 一 其約束手形タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額
- 三 受取人ノ氏名又ハ商號
- 四 單純ナル支拂ノ約束
- 五 振出ノ年月日
- 六 一定ノ滿期日
- 七 振出地

第五百二十六條 振出人カ約束手形ニ支拂地ヲ記載セサリシトキハ振出

地ヲ以テ其支拂地トス

第五百二十七條 一覺後定期拂ノ約束手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年内ニ振出人ニ約束手形ヲ呈示スルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絶證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ振出人以外ノ前者ニ呈スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百二十八條 所持人カ一覽後定期拂ノ約束手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ振出人カ呈示ヲ受ケタル旨又ハ其日附ヲ約束手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絶證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

振出人カ呈示ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第五百二十九條 第四百四十六條、第四百四十九條乃至第四百五十一條、第四百五十三條乃至第四百五十七條、第四百五十九條乃至第四百六十四條、第四百七十一條、第四百八十八條乃至第四百九十七條、第五百八條

乃至第五百十七條及ヒ第五百二十二條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用ス

第四章 小切手

第五百三十條 小切手ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人ノ署名スルコトヲ要ス

- 一 其小切手タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額
- 三 支拂人ノ氏名又ハ商號
- 四 受取人ノ氏名若クハ商號又ハ所持人ニ支拂フヘキコト
- 五 單純ナル支拂ノ委託
- 六 振出ノ年月日
- 七 支拂地

第五百三十一條 小切手ノ振出人ハ自己ヲ受取人ト定ムルコトヲ得

第五百三十二條 小切手ハ一覽拂ノモノトス

第五百三十三條 小切手ノ所持人ハ其日附ヨリ一週間内ニ小切手ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス

所持人カ前項ニ定メタル呈示ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百三十四條 小切手ノ所持人カ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スニハ支拂拒絶證書ノ作成ニ代ヘ支拂人ヲシテ前條第一項ニ定メタル期間内ニ支拂拒絶ノ旨及ヒ其年月日ヲ小切手ニ記載セシメ且之ニ署名セシムルヲ以テ足ル

第五百三十五條 小切手ノ振出人又ハ所持人カ其表面ニ二條ノ平行線ヲ畫キ銀行又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ得

振出人又ハ所持人カ平行線内ニ特定セル銀行ノ商號ヲ記載シタル片ハ支拂人ハ其銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ得但其銀行カ其商號ヲ記消シテ他ノ銀行ノ商號ヲ記載シ之ニ取立ノ委任ヲ爲スコトヲ妨ケス
第五百三十六條 左ノ場合ニ於テハ振出人ハ五圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 資金ナク又ハ信用ヲ得スシテ小切手ヲ振出シタルトキ
- 二 小切手ニ虚偽ノ日附ヲ記載シタルトキ

第五百三十七條 第四百四十六條、第四百五十二條、第四百五十五條、第四百五十七條、第四百五十九條乃至第四百六十二條、第四百六十四條、第四百八十三條、第四百八十四條、第四百八十六條乃至第四百八十九條、第四百九十一條、第四百九十二條、第四百九十五條、第四百九十六條、第五百十四條、第五百十五條及ヒ第五百十七條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス

第五編 海商

第一章 船舶及ヒ船舶所有者

第五百三十八條 本法ニ於テ船舶トハ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

本編ノ規定ハ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第五百三十九條 船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物ト推定ス

第五百四十條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第五百四十一條 船舶所有權ノ讓渡ハ其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百四十二條 航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス
第五百四十三條 差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス

但其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限ニ在ラス
第五百四十四條 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行為又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶運送賃及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルコトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セス

第五百四十五條 船舶所有者カ債權者ノ同意ヲ得シテ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ前條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス
第五百四十六條 船舶共有者ノ間ニ在リテ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第五百四十七條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶ノ利用ニ關スル費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

第五百四十八條 船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラサリシ者ニ付テハ其決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第五百四十九條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ辨濟スル責ニ任ス

第五百五十條 損益ノ分配ハ每航海ノ際ニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價格ニ應シテ之ヲ爲ス

第五百五十一條 船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得シテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但船舶管理人ハ此限ニ在ラス

第五百五十二條 船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス船舶共有者ニ非サル者ヲ船舶管理人ト爲スニハ共有者全員ノ同意アルコトヲ要ス

船舶管理人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第五百五十三條 船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

- 一 船舶ノ讓渡、委付若クハ賃貸ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト爲スコト
- 二 船舶ヲ保險ニ付スルコト
- 三 新ニ航海ヲ爲スコト
- 四 船舶ノ大修繕ヲ爲スコト
- 五 借財ヲ爲スコト

船舶管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百五十四條 船舶管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

船舶管理人ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ各船舶共有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第五百五十五條 船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リテ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分

取リ又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

社員ノ持分ノ移轉ニ因リ會社ノ所有ニ屬スル船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ合名會社ニ在テハ他ノ社員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在テハ他ノ無限責任社員ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取ルコトヲ得

第五百五十六條 船舶ノ賃貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第五百五十七條 船舶ノ賃借人カ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ノ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ船舶ノ利用ニ付キ生シタル先取得權ハ船舶所有者ニ對シテ其效力ヲ生ス但先取得權者カ其利用ノ契約ニ反スルコトヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第二章 船員

第一節 船長

第五百五十八條 船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ船舶所有者、傭船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルコトヲ得ス

第五百五十九條 海員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルコトヲ得ス

第五百六十條 船長カ已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコト能ハサルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ船長ハ其選任ニ付キ船舶所有者ニ對シテ其責ニ任ス

第五百六十一條 船長ハ發航前船舶ノ航海ニ支障ヲキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ檢査スルコトヲ要ス

- 第五百六十二條** 船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス
- 一 船舶國籍證書
 - 二 海員名簿
 - 三 屬具目錄
 - 四 航海日誌
 - 五 旅客名簿
 - 六 運送契約及ヒ積荷ニ關スル書類
 - 七 稅關ヨリ交付シタル書類

前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外國ニ航行セサル船舶ニ限り命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得

第五百六十三條 船長ハ已ムコトヲ得ササル場合ヲ除ク外自己ニ代ハリテ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ荷物ノ船積及ヒ旅客ノ乗込ノ時ヨリ荷物ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百六十四條 船長ハ航海ノ準備カ終ハリタルトキハ遲滯ナク發航ヲ爲シ且必要ナル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セスシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第五百六十五條 船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ積荷ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス
利害關係人ハ船長ノ行爲ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルコトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十六條 船籍港外ニ於テ船長ハ航海ノ爲メニ必要ナルニ切裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
船籍港ニ於テハ船長ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及

ヒ雇止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス

第五百六十七條 船長ノ代理權ニ加ハタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六十八條 船長ハ船舶ノ修繕、救援又ハ救助ノ費用其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 船舶ヲ抵當ト爲スコト

二 借財ヲ爲スコト

三 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ質入スルコト但第五百六十五條第一項ノ場合ハ此限ニ在ス

船長カ積荷ヲ賣却又ハ質入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其積荷ノ到達スヘカリシ時ニ於ケル陸揚港ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但其價格中ヨリ支拂フコトヲ要セザリシ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第五百六十九條 船長カ特ニ委任ヲ受ケスシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出タシ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ船長ニ對シテ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第五百七十條 船籍港外ニ於テ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタ

ルトキハ船長ハ管海官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣スルコトヲ得

第五百七十一條 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス

一 船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地ニ到ルコト能ハサルトキ

二 修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキ

前項第二號ノ價額カ船舶航海中毀損シタル場合ニ於テハ其發航ノ時ニ於ケル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損前ニ有セシ價額トス

第五百七十二條 船長ハ航海ヲ繼續スル爲メ必要ナルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得此場合ニ於テハ第五百六十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百七十三條 船長ハ遲滞ナク航海ニ關スル重要ナル事項ヲ船舶所有者ニ報告スルコトヲ要ス

船長ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ船舶所有者ノ承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルトキハ何時ニテモ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第五百七十四條 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但正

當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船舶所有者ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得
船長カ船舶所有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當ノ代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滯ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百七十五條 船長ノ船舶所有者ニ對スル債權ハ一ケ年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第二節 海員

第五百七十六條 海員ハ其雇入ノ手續カ終ハリタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス

海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去ルヲ得ス

第五百七十七條 海員ノ服役中ノ食絆ハ船舶所有者ノ負擔トス
第五百七十八條 海員カ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三個月ヲ超エサル期間内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス

前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得但し其職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ其給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十九條 一航海ニ付キ給料ヲ定メタル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ又ハ不可抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長シタルトキハ海員ハ其割合ニ應シテ給料ノ増加ヲ請求スルコトヲ得但し航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキト雖モ給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十條 海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス
海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百八十一條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

- 一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ
- 二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタルトキ
- 三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタル

トキ

五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テハ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百八十二條 海員カ前條第一項ニ掲ケタル事由ニ因ラスシテ雇止メラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一个月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十三條 左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ
- 二 自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ

三 船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十四條 航海中船舶ノ所有者カ變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對シ雇傭契約ニ因リテ生シタル權利義務ヲ有ス

第五百八十五條 海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入レルトキハ其期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五百八十六條 雇入期間ノ定ナキトキハ海員ハ特約アル場合ヲ除ク外船舶カ安全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸カ終ハリタル後ニ非サレハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百八十七條 海員ノ雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

- 一 船舶カ沈没シタルコト
 - 二 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルコト
 - 三 船舶カ捕獲セラレタルコト
- 前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ

送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十八條 海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十九條 第五百七十五條ノ規定ハ海員ノ債權ニ之ヲ準用ス

第三章 運送

第一節 物品運送

第一款 總則

第五百九十條

船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル片ハ各當事者ハ相手方ノ請求ニ因リ運送契約書ヲ交付スルコトヲ要ス

第五百九十一條

船舶所有者ハ備船者又ハ荷送人ニ對シ發航ノ當時船舶カ安全ニ航海ヲ爲スコト堪フルコトヲ擔保ス

第五百九十二條

船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ自己ノ過失、船員其他ノ使用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサルニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百九十三條

法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラスシテ船積シタル運送品ハ船長ニ於テ何時ニテモ之ヲ陸揚シ若シ船舶又ハ積荷ニ危害ヲ及ホス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得但船長カ之ヲ運送スルトキハ其船

積ノ地及ヒ時ニ於ケル同種ノ運送品ノ最高ノ運送賃ヲ請求スルコトヲ得前項ノ規定ハ船舶所有者其他ノ利害關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百九十四條

船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ船積スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

備船者カ運送品ヲ船積スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ船積シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ船積ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス

第五百九十五條

船長カ第三者ヨリ運送品ヲ受取ルヘキ場合ニ於テ其者ヲ確知スルコトヲ能ハサルトキ又ハ其者カ運送品ヲ船積セサルトキハ船長ハ直チニ備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ船積期間内ニ限り備船者ニ於テ運送品ヲ船積スルコトヲ得

第五百九十六條

備船者ハ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ニ

對シテ發航ノ請求ヲ爲スコトヲ得

備船者カ前項ノ請求ヲ爲シタルトキハ運送賃ノ金額ノ外運送品ノ全部ヲ請求セサルニ因リテ生シタル費用ヲ支拂ヒ尙ホ船舶所有者ノ請求アルトキハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第五百九十七條 船積期間經過ノ後ハ備船者カ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百九十八條 發航前ニ於テハ備船者ハ運送賃ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

往復航海ヲ爲スヘキ場合ニ於テ備船者カ其歸航ノ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送賃ノ三分ノ二ヲ支拂フコトヲ要ス他港ヨリ船積港ニ航行スヘキ場合ニ於テ備船者カ其船積港ヲ發スル前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキ亦同シ

運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタル後前二項規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其船積及ヒ陸揚ノ費用ハ備船者之ヲ負擔ス

備船者カ船積期間内ニ運送品ノ船積ヲ爲ササリシトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百九十九條

備船者カ前條ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ附隨ノ費用及ヒ立替金ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス

前條第二項ノ場合ニ於テハ備船者ハ前項ニ掲ケタルモノノ外運送品ノ價格ニ應シ共同海損救援又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百條

發航後ニ於テハ備船者ハ運送賃ノ全額ヲ支拂フ外第六百六條第一項ニ定メタル債務ヲ辨濟シ且陸揚ノ爲メニ生スヘキ損害ヲ賠償シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第六百一條

船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ他ノ備船者及ヒ荷送人ト共同セスシテ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送賃ハ之ヲ控除ス

發航前ト雖モ備船者カ既ニ運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタルトキハ他ノ備船者及ヒ荷送人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

前七項ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百二條 個個ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ遲滯ナク運送品ヲ船積スルコトヲ要ス
荷送人カ運送品ノ船積ヲ怠リタルトキハ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ荷送人ハ運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送賃ハ之ヲ控除ス

第六百三條 第六百一條ノ規定ハ荷送人カ契約ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六百四條 備船者又ハ荷送人ハ船積期間内ニ運送ニ必要ナル書類ヲ船長ニ交付スルコトヲ要ス

第六百五條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ陸揚スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船長ハ遲滯ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

運送品ヲ陸揚スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス

個個ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷受人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ遲滯ナク運送品ヲ陸揚スルコトヲ要ス

第六百六條 荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送契約又ハ船荷證券ノ趣旨ニ從ヒ運送賃、附隨ノ費用、立替金及ヒ運送品ノ價格ニ應シ共同海損、救援又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ
船長ハ前項ニ定メタル金額ノ支拂ト引換ニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ要セス

第六百七條 荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ怠リタルトキハ船長ハ之ヲ供託スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滯ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ船長ハ運送品ヲ供託スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ遲滯ナク備船者又ハ荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百八條 運送品ノ重量又ハ容積ヲ以テ運送賃ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ム

第六百九條 期間ヲ以テ運送賃ヲ定メタルトキハ其ノ額ハ運送品ノ船積著手ノ日ヨリ其陸揚終了ノ日マテノ期間ニ依リテ之ヲ定ム但船舶カ不

可抗力ニ因リ發航港若クハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲スヘキトキ又ハ航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ其期間ハ之ヲ算入セス第五百九十四條第二項又ハ第六百五條第二項ノ場合ニ於テ船積期間又ハ陸揚期間經過ノ後運送品ノ船積又ハ陸揚ヲ爲シタル日數亦同シ

第六百十條 船舶所有者ハ第六百六條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受クル爲メ裁判所ノ許可ヲ得テ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

船長カ荷受品ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ船舶所有者ハ其運送品ノ上ニ權利ヲ行使スルコトヲ得但引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ第三者カ占有ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百十一條 船舶所有者カ前條ニ定メタル權利ヲ行ハサルトキハ備船者又ハ荷送人ニ對スル請求權ヲ失フ但備船者又ハ荷送人ハ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十二條 船舶ノ全部又一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタルキハ其契約ノ履行カ船長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船舶ヲ所有者ノミ其第三者ニ對シテ履行ノ責ニ任ス但第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第六百十三條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ其契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由

二 運送品カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト

第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由カ航海中ニ生シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送賃ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十四條 航海又ハ運送カ法令ニ反スルニ至リタルトキ其他不可抗力ニ因リテ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ各當事者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタル場合ニ於テ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シテ運送賃ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十五條 第六百十三條第一項第二號及ヒ前條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキハ備船者ハ船舶所有者ノ負擔ヲ重カラシメタル範圍内ニ於テ他ノ運送品ヲ船積スルコトヲ得

備船者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハント欲スルトキハ遲滞ナク運送品ノ陸揚又ハ船積ヲ爲スコトヲ要ス若シ其陸揚又ハ船積ヲ怠リタルトキハ運送品ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十六條 第六百十三條及ヒ第六百十四條ノ規定ハ船舶ノ一部又ハ個個ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百十三條第一項第二號及ヒ第六百十四條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキト雖モ備船者又ハ荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十七條 船舶所有者ハ左ノ場合ニ於テ運送賃ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船長カ第五百六十八條第一項ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ質入シタルトキ
- 二 船長カ第五百七十二條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ
- 三 船長カ第六百四十一條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

第六百十八條 船舶所有者ノ備船者、荷送人又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六百十九條 第三百二十八條、第三百三十六條乃至第三百四十一條及ヒ第三百四十八條ノ規定ハ送船所有者ニ之ヲ準用ス

第二款 船荷證券

第六百二十條 船長ハ備船者又ハ荷送人ノ請求ニ因リ運送品ノ船積後遲滯ナク一通又ハ數通ノ船荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十一條 船舶所有者ハ船長以外ノ者ニ船長ニ代ハリテ船荷證券ヲ交付スルコトヲ委任スルコトヲ得

第六百二十二條 船荷證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長又ハ之ニ代ハル者署名スルコトヲ要ス

- 一 船舶ノ名稱及ヒ國籍
- 二 船長カ船荷證券ヲ作ラサルトキハ船長ノ氏名
- 三 運送品ノ種類、重量若クハ容積及ヒ其荷造ノ種類、個數並ニ記號
- 四 備船者又ハ荷送人ノ氏名又ハ商號
- 五 荷受人ノ氏名若クハ商號又ハ所持人ニ運送品ヲ引渡スヘキコト
- 六 船積港
- 七 陸揚港但發航後備船者又ハ荷送人カ陸揚港ヲ指定スヘキトキハ其之ヲ指定スヘキ港
- 八 運送賃
- 九 數通ノ船荷證券ヲ作リタルトキハ其員數
- 十 船荷證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第六百十六條 第六百十三條及第六百十四條ノ規定ハ船舶ノ一部又ハ

個個ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス
第六百十三條第一項第二號及第六百十四條第一項ニ掲ケタル事由カ
運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキト雖モ傭船者又ハ荷送人ハ契約ノ解
除ヲ爲スコトヲ得但運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十七條 船舶所有者ハ左ノ場合ニ於テ運送賃ノ全額ヲ請求スルコ
トヲ得

- 一 船長カ第五百六十八條第一項ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ質
入シタルトキ
- 二 船長カ第五百七十二條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタ
ルトキ
- 三 船長カ第六百四十一條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

第六百十八條 船舶所有者ノ傭船者、荷送人又ハ荷受人ニ對スル債權ハ
一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六百十九條 第三百二十八條、第三百三十六條乃至第三百四十一條及
ヒ第三百四十八條ノ規定ハ送船所有者ニ之ヲ準用ス

第二款 船荷證券

第六百二十條 船長ハ傭船者又ハ荷送人ノ請求ニ因リ運送品ノ船積後遲
滯ナク一通又ハ數通ノ船荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十一條 船舶所有者ハ船長以外ノ者ニ船長ニ代ハリテ船荷證券
ヲ交付スルコトヲ委任スルコトヲ得

第六百二十二條 船荷證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長又ハ之ニ代ハル者
署名スルコトヲ要ス

- 一 船舶ノ名稱及ヒ國籍
- 二 船長カ船荷證券ヲ作ラサルトキハ船長ノ氏名
- 三 運送品ノ種類、重量若クハ容積及ヒ其荷造ノ種類、個數並ニ記號
- 四 傭船者又ハ荷送人ノ氏名又ハ商號
- 五 荷受人ノ氏名若クハ商號又ハ所持人ニ運送品ヲ引渡スヘキコト
- 六 船積港
- 七 陸揚港但發航後傭船者又ハ荷送人カ陸揚港ヲ指定スヘキトキハ
其之ヲ指定スヘキ港
- 八 運送賃
- 九 數通ノ船荷證券ヲ作リタルトキハ其員數
- 十 船荷證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第六百二十三條 傭船者又ハ荷送人ハ船長又ハ之ニ代ハル者ノ請求ニ因

リ船荷證券ノ謄本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十四條 陸揚港ニ於テハ船長ハ數通ノ船荷證券中ノ一通ノ所持

人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキト雖モ其引渡ヲ拒ムコトヲ得ス

第六百二十五條 陸揚港外ニ於テハ船長ハ船荷證券ノ各通ノ返還ヲ受ク

ルニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ得ス

第六百二十六條 二人以上ノ船荷證券所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタ

ルトキハ人長ハ遲滞ナク運送品ヲ供託シ且請求ヲ爲シタル各所持人ニ

對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス船長カ第六百二十四條ノ規定ニ依リ

テ運送品ノ一部ヲ引渡シタル後他ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタ

ル場合ニ於テ其殘部ニ付キ亦同シ

第六百二十七條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ其一人カ他

ノ所持人ニ先チテ船長ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ他ノ所持人

ノ船荷證券ハ其效力ヲ失フ

第六百二十八條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ船長カ未タ

運送品ノ引渡ヲ爲ササルトキハ原所持人カ最モ先ニ發送シ又ハ引渡シ

タル證券ヲ所持スル者他ノ所持人ニ先チテ其權利ヲ行フ

第六百二十九條 第三百三十四條、第三百三十五條、第四百五十五條及

ヒ第四百八十三條ノ規定ハ船荷證券ニ之ヲ準用ス

第二章 旅客運送

第六百三十條 記名ノ乘船切符ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

第六百三十一條 旅客ノ航海中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第六百三十二條 旅客カ契約ニ依リ船中ニ携帶スルコトヲ得ル手荷物ニ付

テハ船舶所有者ハ契約アルニ非サレハ別ニ運送賃ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百三十三條 旅客カ乘船時期マテニ船舶ニ乗込マサルトキハ船長ハ

發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ旅客ハ運送賃

ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百三十四條 發航前ニ於テハ旅客ハ運送賃ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ

解除ヲ爲スコトヲ得

發航後ニ於テハ旅客ハ運送賃ノ全額ヲ支拂フニ非サレハ契約ノ解除ヲ

爲スコトヲ得ス

第六百三十五條 旅客カ發航前ニ死亡、疾病其他一身ニ關スル不可抗力

ニ因リテ航海ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ船舶所有者ハ運送

賃ノ四分ノ一ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタルトキハ船舶所有者ハ其選擇ニ從ヒ運送賃ノ四分ノ一ヲ請求シ又ハ運送ノ割合ニ應シテ運送賃ヲ請求スルコトヲ得

第六百三十六條 航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ船舶所有者ハ其修繕中旅客ニ相當ノ住居及ヒ食料ヲ供スルコトヲ要ス但旅客ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ他ノ船舶ヲ以テ上陸港マテ旅客ヲ運送スルコトヲ提供シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 旅客運送契約ハ第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由ニ因リテ終了ス若シ其事由カ航海中ニ生シタルトキハ旅客ハ運送ノ割合ニ應シテ運送賃ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百三十八條 旅客カ死亡シタルトキハ船長ハ最モ其相續人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其船中ニ在ル手荷物ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス
第六百三十九條 第三百五十條、第三百五十一條第一項、第三百五十二條、第五百九十一條、第五百九十二條、第六百十四條及ヒ第六百十八條ノ規定ハ海上ノ旅客運送ニ之ヲ準用ス

第五百九十三條 及ヒ第六百十七條ノ規定ハ旅客ノ手荷物ニ之ヲ準用ス
第六百四十條 旅客運送ヲ爲ス爲メ船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契

約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ船舶所有者ト傭船者トノ關係ニ付テハ前條第一款ノ規定ヲ準用ス

第四章 海損

第六百四十一條 船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危險ヲ免レシムル爲メ船舶又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リ生シタル損害及ヒ費用ハ之ヲ共同海損トス

前項ノ規定ハ危險カ過失ニ因リテ生シタル場合ニ於テ利害關係人ノ過失者ニ對スル求償ヲ妨ケス

第六百四十二條 共同海損ハ之ニ因リテ保存スルコトヲ得タル船舶又ハ積荷ノ價格ト運送賃ノ半額ト共同海損タル損害ノ額トノ割合ニ應シテ各利害關係人之ヲ分擔ス

第六百四十三條 共同海損ノ分擔額ニ付テハ船舶ノ價格ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トシ積荷ノ價格ハ陸揚ノ地及時ニ於ケル價格トス但積荷ニ付テハ其價格中ヨリ減失ノ場合ニ於テ支拂フコトヲ要セサル運送賃其他ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第六百四十四條 前二條ノ規定ニ依リ共同海損ヲ分擔スヘキ者船舶ノ到達又積荷ノ引渡ノ時ニ於テ現存スル價額ノ限度ニ於テノミ其責ニ任ス

第六百四十五條 船舶ニ備附ケタル武器、船員ノ給料、船員及ヒ旅客ノ食料並ニ衣類ハ共同海損ノ分擔ニ付キ其價額ヲ算入セス但此等ノ物ニ加ヘタル損害ハ他ノ利害關係人之ヲ分擔ス

第六百四十六條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ナクシテ船積シタル荷物又ハ屬具目錄ニ記載セサル屬具ニ加ヘタル損害ハ利害關係人ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要セス

甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害亦同シ但沿岸ノ小航海ニ在リテハ此限ニ在ラス
前二項ニ掲ケタル積荷ノ利害關係人ト雖モ共同海損ヲ分擔スル責ヲ負ルルコトヲ得ス

第六百四十七條 共同海損タル損害ノ額ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ價格又ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但積荷ニ付テハ其滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セザリシ一切ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第三百三十八條ノ規定ハ共同海損ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十八條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ニ積荷ノ實價ヨリ低キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ニ加ヘタル損害ノ

額ハ其記載シタル價額ニ依リテ之ヲ定ム

積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價額ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス

前二項ノ規定ハ積荷ノ價額ニ影響ヲ及ホスヘキ事項ニ付キ虛偽ノ記載ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十九條 第六百四十二條ノ規定ニ依リテ利害關係人カ共同海損ヲ分擔シタル後船舶、其屬具若クハ積荷ノ全部又ハ一部カ其所有者ニ復シタルトキハ其所有者ハ償金中ヨリ救助ノ費用及ヒ一部滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ノ額ヲ控除シタルモノヲ返還スルコトヲ要ス

第六百五十條 船舶カ雙方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ニ於テ雙方ノ過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ其衝突ニ因リテ生シタル損害ハ各船舶ノ所有者平分シテ之ヲ負擔ス

第六百五十一條 共同海損又ハ船舶ノ衝突ニ因リテ生シタル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ共同海損ニ付テハ其計算終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六百五十二條 本章ノ規定ハ船舶カ不可抗力ニ因リ發航港又ハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲ス爲メニ要スル費用ニ之ヲ準用ス

第五章 保險

第六百五十三條 海上保險契約ハ航海ニ關スル事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ノ填補ヲ以テ其目的トス

海上保險契約ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第三編第十章第一節第一款ノ規定ヲ適用ス

第六百五十四條 保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第六百五十五條 保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔者ノ填補スル責ニ任ス但保險者ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第六百五十六條 船舶ノ保險ニ付テハ保險者ノ責任カ始マル時ニ於ケル其價額ヲ以テ保險價額トス

第六百五十七條 積荷ノ保險ニ付テハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積並ニ保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス

第六百五十八條 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益額ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ以テ保險價額ヲ定メサリシトキハ保險金額ヲ以テ保險價額ト

シタルモノト推定ス

第六百五十九條 一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ荷物又ハ底荷ノ船積ニ着手シタル時ヲ以テ始マル

荷物又ハ底荷ノ船積ヲ爲シタル後船舶ヲ保險ニ付シタルトキハ保險者ノ責任ハ契約成立ノ時ヲ以テ始マル

前二項ノ場合ニ於テ保險者ノ責任ハ到達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル但其陸揚カ不可抗力ニ因ラスシテ遅延シタルトキハ其終了スヘカリシ時ヲ以テ終ハル

第六百六十條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ其積荷カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百六十一條 海上保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記スルコトヲ要ス

- 一 船荷ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ其船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船長ノ氏名及ヒ發航港、到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港名

二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船積港及ヒ陸揚港

第六百六十二條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ航海ヲ變更シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

保險者責任カ始マリタル後航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス
到達港ヲ變更シ其實行ニ着手シタルトキハ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタルモノト看做ス

第六百六十三條 被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコト怠リ又ハ航路ヲ變更シ其他著シク危險ヲ變更若クハ増加シタルトキハ保險者ハ其變更又ハ増加以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更又ハ増加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ホササリシトキ又ハ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力若クハ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十四條 保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ホサス

第六百六十五條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十六條 保險契約ヲ爲スニ當タリ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者其荷物ヲ荷積シタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第六百六十七條 保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セス

- 一 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
- 二 船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害

三 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ備船者、荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

四 水先案内料、入港料、燈臺料、檢疫料其他船舶又ハ積荷ニ付キ航海ノ爲メニ出ダシタル通常ノ費用

第六百六十八條 共同海損ニ非サル損害又ハ費用カ其計算ニ關スニ費用ヲ算入セスシテ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エサルトキハ保險者ハ之ヲ填補スル責ニ任セス

右ノ損害又ハ費用カ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エタルトキハ保險者ハ其全額ヲ支拂フコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ當事者カ契約ヲ以テ保險者ノ負擔セサル損害又ハ費用ノ割合ヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス

前三項ニ定メタル場合ハ各航海ニ付キ之ヲ計算ス

第六百六十九條 保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險者ハ其積荷カ毀損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ對スル割合ヲ以テ保險價額ノ一部ヲ填補スル責ニ任ス

第六百七十條 航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタル片ハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送賃其他ノ費用ヲ控除シタル者ト保險價額トノ差ヲ以テ保險者ノ負擔トス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ第三百九十一條ノ適用ヲ妨ケス

前項ノ場合ニ於テ買主カ代價ヲ支拂ハサルトキハ保險者ハ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス但其支拂ヲ爲シタルトキハ保險者ノ買主ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

第六百七十一條 左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船舶カ沈没シタルトキ
- 二 船舶ノ行方カ知レサルトキ
- 三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ
- 四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ
- 五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六個月間解放セラレサルトキ

第六百七十二條 船舶ノ存否カ六個月間分明ナラサルトキハ其船舶ハ行方ノ知レサルモノトス

保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間内ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅失ヒサルシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トス

第六百七十三條 第六百七十一條第三號ノ場合ニ於テ船長カ遲滞ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付スルコトヲ得ス

第六百七十四條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三個月以内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ第六百七十一條第一號第三號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十五條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス

委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ得
保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ應シテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十六條 保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第六百七十七條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セラル一切ノ權利ヲ取得ス

被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

第六百七十八條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當タリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約竝ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

保險者ハ前項ノ通知ヲ受クルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セ
ス保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十九條 保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第六章 船舶債權者

第六百八十條 左ニ掲ケタル債權ヲ有スル者ハ船舶、其屬具及ヒ未
タ受取ラサル運送賃ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及競賣手續開始後ノ保存費
 - 二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具保存費
 - 三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅
 - 四 水先案内料及ヒ挽船料
 - 五 救援並ニ救助ノ費用及ヒ船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損
 - 六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權
 - 七 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權
 - 八 船舶カ其賣買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其賣買又ハ製造並ニ艤裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ艤裝、食料並ニ燃料ニ關スル債權
 - 九 第九號ニ第四號乃至六號及ヒ前號ニ掲ケタルモノヲ除外第五百四十四條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權
- 第六百八十一條** 船舶債權者ノ先取特權ハ運送賃ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送賃ノ上ニノミ存在ス
- 第六百八十二條** 船舶債權者ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第六百八十條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先

ツ同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク但第六百八十條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セサリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ

先取特權カ數回ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラス後ノ航海ニ付テ生シタルモノ前ノ航海ニ付テ生シタル者ニ先シ

第六百八十三條 船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先シ

第六百八十四條 船舶所有者カ其船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓受人ハ其讓渡ヲ登記シタル後先取特權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルヲ要ス但其期間ハ一个月ヲ下ルヲ得ス先取特權者カ前項ノ間期內ニ其債權ノ申出ヲ爲ササリシトキハ其先取特權ハ消滅ス

第六百八十五條 船舶債權者ノ先取特權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第六百八十六條 第八號ノ先取特權ハ船舶ノ發航ニ因リテ消滅ス

第六百八十七條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スヲ得船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及フ

船舶ノ抵當權ニハ不動産ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス
 第六百八十七條 船舶先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得
 第六百八十八條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス
 第六百八十九條 本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

日本改正商法 終

商法施行法

第一條 商法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ
 除ク外舊法ノ規定ヲ適用ス
 第二條 商事ニ關スル特別ノ法令ハ商法施行ノ後ト雖モ仍其效力ヲ存ス
 第三條 特別ノ法令中舊商法ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付
 テハ舊商法ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス
 第四條 商法施行前ヨリ商業ヲ營ム未成年者、妻及ヒ後見人ハ商法ノ規
 定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第五條 商法施行前ニ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年
 者又ハ妻ハ商法施行ノ日ヨリ其會社ノ業務ニ關シ之ヲ能力者ト看做ス
 第六條 商法第七條第二項ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタ
 ル制限ニモ亦之ヲ適用ス
 第七條 商法第八條ニ定メタル小商人ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第八條 商法施行前ニ舊法ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ハ商法ノ規定ニ
 從ヒテ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第九條 商法施行ノ前ニ登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲ササリシトキハ當事者ハ其施行ノ後遲滯ナク登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 商法施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ノ社名ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記シタル商號ト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ其社名中ニ合名會社ナル文字ヲ用非サルモノハ其施行ノ日ヨリ三個月内ニ商法第十七條ノ規定ニ從ヒテ其社名ヲ改メ且其登記ヲ爲スコトヲ要ス

會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ過料ニ處ヒラル

第十二條 商法第十八條ノ規定ハ商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

第十三條 商法十九條ノ規定ハ舊商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

商法施行後ニ商號ノ登記ヲ爲シタル者ト雖モ舊商法施行前ヨリ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 商法第十九條、第二十條第二項、第二十二條第一項及第二百八十九條第三項ニ掲ケタル市町村ハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域トシ東京市、京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區トス

第十五條 商法施行前ニ東京市又ハ大阪市ニ於テ商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ商法施行ノ日ヨリ六個月内ニ其市ニ存スル他ノ登記所ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登記ヲ爲ササリシ者ハ其登記ノ所管轄區域内ニ於テハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十六條 商法第二十二條第二項ノ適用ニ付テハ北海道ハ之ヲ一府縣ト看做ス

第十七條 商法第二十八條ノ規定ハ商法施行前ニ作リタル商業帳簿ニモ亦之ヲ適用ス

第十八條 代務人ニハ商法施行ノ日ヨリ支配人ニ關スル規定ヲ適用ス

第十九條 商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者カ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有セサルトキハ主人ハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其名稱ヲ改ムルコトヲ要ス

主人カ前項ノ期間内ニ支配人又ハ支配役ノ名稱ヲ改メサリシトキハ其者ハ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有スルモノト看做ス

第二十條 商法第三十二條第三項ノ規定ハ舊商法第五十條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス但一年ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス主人カ商法施行前ニ前項ノ行爲ヲ知リタルトキハ二週間ノ期間モ亦其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 商法中代理商ニ關スル規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル代理商ニモ亦之ヲ適用ス

第二十二條 商法中會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ設立シタル會社ニモ亦之ヲ適用ス

第二十三條 商法第四十七條ニ定メタル期間ハ商法施行前本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ未タ設立ノ登記ヲ爲ササルモノハ商法施行ノ日ヨリ一个月内ニ商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作り且商法第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル合名會社ハ商法施行ノ日ヨリ一个月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、

店ノ所在地ニ於テハ本店地ニ他ノ支店及ヒ社員ノ出資ノ種類並ニ財産ヲ目的トスル出資ノ價格ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十六條 商法第五十一條第二項、第三項及ヒ第五十二條ノ規定ハ合名會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後商法施行前ニ支店ヲ設ケ又ハ其本店若クハ支店ヲ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス但登記期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十七條 會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前二條ノ規定ニ依リ爲スヘキ登記ヲ怠リタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十八條 商法第六十條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ舊商法第一百四條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

第二十九條 商法第七十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニ之ヲ適用セス

第三十條 合名會社ノ目的タル事業ノ成功カ商法施行前ニ不能ト爲リタルトキハ裁判所カ解散ヲ命シタル場合ヲ除ク外其會社ハ商法ノ施行ト同時ニ解散シタルモノト看做ス

第三十一條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ清算人

ヲ選任セサルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十二條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ既ニ清算人ヲ選任シタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條及ヒ第九十條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十四條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ清算人ヲ選任セサルトキハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處分方法ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ商法施行ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

商法第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 合名會社カ商法施行前ニ解散ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ清算ハ舊商法ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス

第三十六條 合名會社ニ於テ商法施行前ニ清算人ノ解任又ハ變更アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第九十七條ノ規定ニ從ヒテ登

記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十七條 商法第一百三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル合名會社ニモ亦之ヲ適用ス

第三十八條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ舊商法ノ規定ヲ適用ス第二十三條、第二十五條乃至第三十二條及ヒ前三條ノ規定ハ前項ノ會社ニ之ヲ準用ス

第三十九條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ其取引ニ關スル一切ノ書類ニ商法施行前ニ設立シタル會社タルコトヲ示スコトヲ要ス業務擔當社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第四十條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ舊商法第五十一條第二項ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ商法ニ定メタル合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ總會ハ直チニ新會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第四十一條 商法第七十八條第一項、第二項及ヒ第二百五十四條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ商法ノ規定ニ從ヒテ合併ヲ爲スコトヲ得但合併後存續シ又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ商法ニ定メタル種類ノ一タルコトヲ要ス
合併ノ決議ハ舊商法第百五十一條第二項ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ニ於テハ其發起人ハ七人以上ナルコトヲ要セス

第四十四條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ト雖モ其發起人カ未タ株主ノ募集ニ着手セサルトキハ之ニ商法ノ規定ヲ適用ス

第四十五條 株式會社ノ發起人カ商法施行前ニ株主募集ニ着手シタルトキハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得但商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第四十六條 商法施行前ニ創業總會ニ於テ定款ヲ確定シタル場合ニ於テハ商法ノ規定ニ從ヒテ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第四十七條 商法第百三十條ノ規定ハ前二條ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第四十八條 商法第百六十三條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依リテ招集シタル創業總會ノ決議ニ之ヲ準用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十九條 第四十五條ノ場合ニ於テ商法施行前ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其日ヨリ六个月内ニ發起人カ創業總會ヲ招集セサルトキハ株式申込人ハ其申込ヲ取消コトヲ得

第五十條 第四十五條及ヒ第四十六條ノ場合ニ於テハ株式會社ハ各株ニ付キ株金ノ四分ノ一ノ拂込アリタル後二週間内ニ商法第百四十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ニシテ其定款ニ商法第百二十條第一號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定メサルモノハ商法施行ノ日ヨリ六个月内ニ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十二條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ハ商法施行ノ日ヨリ三ヶ月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ會社カ公告ヲ爲ス方法並ニ監査役ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第五十三條 商法施行前ニ設立シタル株式會社カ登記シタル事項中ニ變

更ヲ生シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲ササリシキハ其施行ノ日ヨリ二週内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
舊商法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項カ商法施行前ニ生シタル場合ニ於テハ舊商法ニ登記期間ノ定ナキトキニ限リ前項ノ規定ヲ準用ス
第五十四條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上十圓以下ノ過料ニ處セラレ

第五十五條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ株式ノ金額カ商法第四百四十五條第二項ノ規定ニ反スルモ舊商法及ヒ舊商法施行條例ノ規定ニ反セサル場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得商法施行後ニ新株ヲ發行スルトキ亦同シ
前項規定ハ商法施行後ニ株式ノ金額ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス

第五十六條 商法中株券ニ關スル規定ハ商法施行前ニ發行シタル假株券ニモ亦之ヲ適用ス

第五十七條 商法施行前ニ發行シタル株券及ヒ假株券ハ商法第四百四十八條又ハ第二百十八條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムルコトヲ要セス但商法施行後ニ株金ノ拂込ヲ爲シタル場合ニ於テハ前ニ拂込ミタル金額及ヒ新ニ拂込ミタル金額ヲ假株券ニ記載スルコトヲ要ス

第五十八條 舊商法第二百十二條乃至第二百十五條ノ規定ハ商法施行前ニ株金拂込ノ催告アリタル場合ニ限り之ヲ適用ス

第五十九條 商法第五百十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ商法施行前ニ株式ヲ讓渡シタル者ニシテ舊商法第八十二條ノ規定ニ依リ擔保義務ナキ者ニハ之ヲ適用セス

第六十條 法令ノ規定ニ依リ日本人ノミチ以テ組織スヘキ株式會社及ヒ日本人ノミチ以テ組織スルコトヲ條件トシテ特別ノ權利ヲ有スル株式會社ハ無記名式ノ株券ヲ發行スルコトヲ得ス若シ之ニ違反シタルトキハ其株券ハ無効トシ最後ノ記名株主ヲ以テ株主トス
取締役カ前項ノ規定ニ反シテ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラレ

第六十一條 舊商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テハ株主ノ議決權ノ制限カ商法第六十二條ノ規定ニ反スルモ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得但商法施行後ニ其制限ヲ變更スル場合ハ此限ニ在ラス

第六十二條 商法第六十三條ノ規定ハ株主總會カ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條 商法第六十七條但書ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役及ヒ監査役ニハ之ヲ適用セス

第六十四條 商法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ト雖モ其禁治産ニ因リテ退任ス

第六十五條 商法施行前ニ選任シタル取締役ハ其施行ノ後遲滞ナク定款ニ定メタル員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第六十六條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ其施行後ニ株金ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ其拂込ノ年月日ヲ株主名簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十七條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ノ取締役ハ其施行ノ後遲滞ナク社債ノ總額及ヒ其償還ノ方法ヲ社債原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十八條 株式會社カ商法施行前ニ其資本ノ半額ヲ失ヒタル場合ニ於テハ取締役ニ商法施行ノ後遲滞ナク株主總會ヲ招集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス

商法施行前ニ會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第六十九條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ過料ニ處セララル

第七十條 商法第七十五條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニハ之ヲ適用セス

第七十一條 舊商法第八十九條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニノミ之ヲ適用ス

第七十二條 商法施行前ニ舊商法第二百二十八條又ハ第二百二十九條ノ規定ニ依リテ提起シタル訴ニハ商法ノ規定ヲ適用セス

第七十三條 商法施行前ニ選任シタル監査役ハ其任期カ一年ヨリ長キトキト雖モ其任期間在任ス

第七十四條 商法第九十條ニ掲ケタル書類ハ商法施行前ニ總會招集ノ通知ヲ發シタル場合ニ限り會日マテニ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第七十五條 商法第九十六條ノ規定ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社カ其登記後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

裁判所カ定款ノ規定ヲ認可シタルトキハ取締役ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

取締役カ前項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ過料ニ處セラル

第七十六條 明治二十三年法律第六十號ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七十七條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テハ舊法ノ規定ニ依リテ其募集ヲ完了スルコトヲ得

第七十八條 商法第二百四條第一項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第七十九條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テ一時ニ全額ノ拂込ヲ爲サシメサルトキハ第一回ノ拂込アリタル後二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ商法第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第八十條 商法施行前ニ社債ノ全額又ハ一部ノ拂込アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ商法第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第八十一條 商法施行前ニ發行シタル債券ハ商法第二百五條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムルコトヲ要セス第五十七條但書ノ規定ハ債券ニ之ヲ準用ス

第八十二條 商法第二百九條第二項ノ規定ハ商法施行前ニ假決議ヲ爲シテ未タ其通知ヲ發セサル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十三條 商法第二百九條第四項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ定款變更ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第八十四條 株式會社カ商法施行前ニ資本ノ増加若クハ減少ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ舊商法ノ規定ニ依リテ其増加又ハ減少ヲ爲スコトヲ得

商法第二百二十八條乃至第三百十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十五條 商法施行前ニ爲シタル決議又ハ假決議ニ依リテ資本ヲ増加シタル場合ニ於テ商法施行前ニ新株ニ付キ拂込ミタル株金額ノ登記ヲ爲ササリシトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ拂込アリタルトキハ其日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六條 株式會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ解散ノ決議ヲ爲ササルトキハ取締役ハ商法施行ノ後遲滯ナク株主ニ對シテ解散ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第八十七條 取締役カ前二條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓下ノ過料ニ處セラル

八十八條 株式會社ノ清算人ハ株主總會又ハ裁判所カ商法施行前ニ與ヘタル順示ヲ遵守スルコトヲ要ス

第八十九條 商法施行前ニ舊商法第二百四十二條ノ規定ニ依リテ選任シタル代人ハ商法施行ノ後ト雖モ其權限ヲ保有ス

第九十條 第三十三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル株式會社ノ清算人カ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第九十一條 第二十六條、第三十條乃至第三十二條、第三十五條及ヒ第三十六條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第九十二條 商法施行前ニ日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケルコトヲ得商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社及ヒ組合ニ付キ亦同シ

第九十三條 商法施行前ニ商法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第九十四條 私設鐵道株式會社ニハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條倒ノ改正ニ至ルマテ舊商法及ヒ其附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス

第九十五條 保險事業ハ政府ノ免許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

政府ノ免許ヲ得スシテ保險事業ヲ營ム者アルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其營業ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ禁止ニ拘ハラズ保險事業ヲ營ム者又ハ之ヲ營ム會社ノ業務ヲ執行スル社員若クハ取締役ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

第九十六條 保險事業ハ株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第九十七條 保險會社ハ他ノ營業ヲ兼ヌルコトヲ得ス

同一ノ會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ營業トスルコトヲ得ス

第九十八條 保險會社ノ發起人カ營業ノ免許ヲ請フニハ定款及ヒ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書面ヲ差出タスコトヲ要ス

- 一 保險ノ種類及ヒ營業ノ範圍
- 二 普通保險約款
- 三 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎及ヒ方法
- 四 責任準備金利息ノ方法

第九十九條 保險會社カ前條ニ掲ケタル書類ヲ變更スルニハ政府ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百條 政府カ第九十八條ニ掲ケタル書類ノ變更ヲ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ得

第一百一條 政府ハ何時ニテモ保險會社ヲシテ其營業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第一百二條 政府カ保險會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況ニ依リ其營業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ保險會社カ政府ノ命令ニ違反シタルトキハ政府ハ其營業ノ停止又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由アリト認ムルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第一百三條 保險會社ハ總會終結ノ後遲滞ナク商法第九十條ニ掲ケタル書類及ヒ總會ノ決議録ヲ政府ニ差出スコトヲ要ス

第一百四條 保險契約者、被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ保險會社ノ定時總會終結ノ後營業報告、書財産目錄若クハ貸借對照表ノ閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但保險會社ハ定款又ハ保險契約ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手數料ヲ拂ハシムルコトヲ妨ケス

第一百五條 保險會社ハ他ノ事業ヲ目的トスル會社ト合併ヲ爲スコトヲ得ス生命保險ヲ營業トスル會社ト損害保險ヲ營業トスル保險トハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

第一百六條 保險會社カ合併ヲ爲スニハ特ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作リ合併契約書ト共ニ之ヲ政府ニ差出シ其認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百七條 保險會社カ任意ノ解散ヲ爲スニハ政府ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百八條 生命保險ヲ營業トスル會社ニ在リテハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社財産ニ對シ他ノ債權者ニ先チテ其權利ヲ行フコトヲ得

第一百九條 生命保險ヲ營業トスル會社カ解散シタル場合ニ於テハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ノ割合ニ應シテ其權利ヲ行フコトヲ得但會社ノ解散前ニ保險金額ヲ受取ルヘカリシ場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ損害保險ヲ營業トスル會社ニ之ヲ準用ス

第一百十條 第九十七條及前十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合資會社又ハ株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

商法施行前ニ設立シタル會社ニシテ第九十七條ニ禁止シタル兼業ヲ爲スモノハ商法施行ノ日ヨリ六个月内ニ其兼業ヲ廢止スルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其保險營業ヲ禁止スルコトヲ得

第一百十一條 第九十七條、第九十九條乃至第一百二條、第一百五條乃至第一百

九條及ヒ前條第二項ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第百十二條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスル

モノハ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ遲滯ナク營業報告書、損益計算書及ヒ利益ノ配當ニ關スル案ト共ニ之ヲ政府ニ差出スコトヲ要ス

第百十三條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスル

モノカ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ保險契約者、被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ第四百四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第百十四條 第九十七條第九十九條乃至第百二條及ヒ第百十條第二項ノ

規定ハ商法施行前ヨリ保險事業ヲ營ム者ニ之ヲ準用ス

第百十五條 外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム

場合ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第百十六條 保險會社ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第百十七條 明治十年第六十六號布告利息制限法第五條ノ規定ハ商事ニ

ハ之ヲ適用セス

第百十八條 商法施行前ニ設定シタル質權ノ實行ニ付テハ別段ノ意思表

示アリタル場合ヲ除ク外競賣法ノ規定ヲ適用ス但取引所ノ相場アル有

價證券其他ノ商品ニ在リテハ執達吏ハ取引所ニ於テ之ヲ賣却スルコト

ヲ得前項ノ規定ハ留置權者カ其留置物ヲ賣却スル場合ニ之ヲ準用ス

第百十九條 商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニハ本法

ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外商法ノ規定ヲ適用ス但民法施行法第三十

條、第三十一條及ヒ第三十三條ノ準用ヲ妨ケス

第百二十條 商法第二百八十一條ノ規定ハ商法施行前ニ發行シタル指圖

證券及ヒ無記名證券ニ亦之ヲ適用ス

第百二十一條 商法第二百九十九條ノ規定ハ商法施行前ニ約シタル匿名

組合ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十二條 湖川、港灣及ヒ沿岸小航海ノ範圍ハ遞信大臣之ヲ定ム

第百二十三條 手形ノ所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證

書ノ作成カ商法施行前ニ在タル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ支拂拒絕

證書ノ作成カ商法施行後ニ在リタル場合ニ於テハ其作成ノ日ヨリ六個

月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ商法施行前ニ償還ヲ爲シタル場

合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ

其日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

商法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ商法施行ノ日ヨリ起算シテ六個月ヨリ短キトキハ時効ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第二百二十四條 明治十九年法律第二號公證人規則第二十八條ノ規定ハ公證人カ拒絕證書ヲ作ル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百二十五條 外國ニ於テ爲シタル手形行爲ノ要件ハ行爲地ノ法律ニ依ル前項ノ規定ニ拘ハラズ外國ニ於テ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキハ外國ノ法律ニ依レハ要件ヲ具備セサルトキト雖モ爾後日本ニ於テ爲シタル手形行爲ハ有效トス日本人カ外國ニ於テ日本人ニ對シテ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキ亦同シ

第二百二十六條 外國ニ於テ手形上ノ權利ヲ行使又ハ保全スル爲メニ爲ス行爲ノ方式ハ行爲地ノ法律ニ依ル

第二百二十七條 商法第五百五十二條第三項ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

第二百二十八條 商法第五百五十六條ノ規定ハ商法施行前ニ爲シタル船舶

ノ質貸借ニモ亦之ヲ適用ス

第二百二十九條 商法第五百五十八條乃至第五百六十八條及ヒ第五百七十一條乃至第五百七十四條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船長モ亦之ヲ適用ス

第二百三十條 商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ノ書式ハ遞信大臣之ヲ定ム

第二百三十一條 委付ノ原因カ商法施行後ニ生シタルトキハ其施行前ニ爲シタル保險契約ニ付テモ被保險者ハ商法ノ規定ニ從ヒテ委付ヲ爲スコトヲ得

第二百三十二條 船舶ノ存否カ商法施行ノ日ヨリ六個月間分明ナラサルトキハ未タ舊商法第九百六十六條第一項ノ期間ヲ經過セサルトキト雖モ其船舶ハ行方ノ知レサルモノト看做ス

第二百三十三條 商法施行ノ際舊商法第九百六十九條第一項ニ定メタル三日ノ期間カ未タ滿了ニ至ラサルトキハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ法商第五百七十四條ニ定メタル通知ヲ發シテ委付ヲ爲スコトヲ得

第二百三十四條 船舶ノ先取特權ニ關スル商法ノ規定ハ其施行前ニ發生シタル債權ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第三百三十五條 第三十三條ノ規定ハ商法第五百八十四條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第三百三十六條 船舶ノ抵當權ニ關スル商法ノ規定ハ商法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス

第三百三十七條 民法施行法第二條、第三條、第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十四條、第五十三條及ヒ第五十六條ノ規定ハ商事ニ之ヲ準用ス

第三百三十八條 明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十八條ヲ左ノ如ク改ム

商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ裁分所ハ本人又ハ債權者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス

裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得此裁判所ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十九條 破産宣告ノ申立ヲ爲ス債權者ハ裁判所ノ定ムル所ニ從ヒ破産手續ニ必要ナル費用ヲ豫納スルコトヲ要ス
債權者カ前項ノ費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ破産宣告ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

第四百十條 本人カ破産宣告ノ申立ヲ爲シタルトキハ破産手續ニ必要ナル費用ハ假ニ國庫コリ之ヲ支辨スルコトヲ要ス債權者カ破産宣告ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ前條第二項ノ規定ニ依リテ其申立ヲ棄却セサルトキ亦同シ

第四百十一條 裁判所ハ破産事件ニ付キ地方裁判所又ハ區裁判所ニ法律上ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

第四百十二條 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十一條第五號ヲ左ノ如ク改ム

第五 財産目錄、貸借對照表ノ作成若クハ支拂停止届出ノ義務ヲ怠リタルトキ又ハ裁判所ノ許可ヲ得スシテ其住地ヲ離レタルトキ
第四百十三條 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十四條ヲ左ノ如ク改ム

破産宣告ヲ受ケタル債務者ハ復權ヲ得ルニ非サレハ會社ノ無限責任社員、舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ノ業務擔當社員、株式會社ノ取締役若クハ監查役、清算人、破産管財人又ハ商業會議所ノ會員ト爲ルコトヲ得ス

第四百十四條 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十五條第三項ハ

之ヲ削除ス

五百四十

第四百十五條 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十九條ヲ左ノ如ク改ム

商人カ商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ付キ自己ノ過失ナクシテ支拂ヲ中止セサルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テ其債權者ノ過半數以上ノ承諾ヲ得タルトキハ營業所ノ所在地又ハ住所地ヲ管轄スル裁判所ハ一年ヲ超エサル範圍内ニ於テ支拂猶豫ヲ與フルコトヲ得

附則

第四百十六條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四百十七條 明治二十三年法律第五十九號商法施行條例ハ第二十條、

第二十四條、第二十五條、第三十五條乃至第四十五條及ヒ第四十八條乃至第五十條ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但第二十一條乃至第二十三條及ヒ第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍ホ其效力ヲ存ス

商法施行法 終

民事訴訟法

第一編 總則

第一章 裁判所

第一節 裁判所ノ事物ノ管轄

第一條 裁判所ノ事物ノ管轄ハ裁判所構成法ノ規定ニ從フ

第二條 訴訟物ノ價額ニ依リ管轄ノ定マルトキハ以下數條ノ規定ニ從フ

第三條 訴訟物ノ價額ハ起訴ノ日時ニ於ケル價額ニ依リ之ヲ算定ス

果實損害賠償及訴訟費用ハ法律上相牽連スル主タル請求ニ附帶シ一ノ

訴ヲ以テ請求スルトキハ之ヲ算入セス

第四條 一ノ訴ヲ以テ數箇ノ請求ヲ爲ストキハ前條第二項ニ掲クルモノ

ヲ除ク外其額ヲ合算ス

本訴ト反訴トノ訴訟物ノ價額ハ之ヲ合算ス

第五條 訴訟物ノ價額ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

第一 債權ノ擔保又ハ債權ノ擔保ヲ爲ス從タル物權カ訴訟物ナルトキ

民事訴訟法

五百四十一

ハ其債權ノ額ニ依ル但物權ノ目的物ノ價額寡キトキハ其額ニ依ル
第二 地役カ訴訟物ナルトキハ要役地ノ他役ニ依リ得ル所ノ價額ニ依
ル但地役ノ爲メ承役地ノ價額ノ減シタル額カ要役地ノ地役ニ依リ得
ル所ノ價額ヨリ多キトキハ其減額ニ依ル

第三 賃貸借又ハ永貸借ノ契約ノ有無又ハ其時期カ訴訟物ナルトキハ
爭アル時期ニ當ル借賃ノ額ニ依ル但一个年借賃ノ二十倍ノ額カ右ノ
額ヨリ寡キトキハ其二十倍ノ額ニ依ル

第四 定時ノ供給又ハ收益ニ付テノ權利カ訴訟物ナルトキハ一个年收
入ノ二十倍ノ額ニ依ル但收入權ノ期限定マリタルモノニ付テハ其將
來ノ收入ノ總額カ二十倍ノ額ヨリ寡キトキハ其額ニ依ル

第六條 訴訟物ノ價額ハ必要ナル場合ニ於テハ第三條乃至第五條ノ規定
ニ從ヒ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

裁判所ハ申立ニ因リ證據調ヲ命シ又ハ職權ヲ以テ檢證若クハ鑑定ヲ命
スルコトヲ得

第七條 地方裁判所ノ判決ニ對シテハ其事件カ區裁判所ノ事物ノ管轄ニ
屬ス可キ理由ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第八條 事物ノ管轄ニ付キ區裁判所又ハ地方裁判所カ管轄違ナリト宣言
シ其裁判確定シタルトキハ此裁判ハ後ニ其事件ノ繫屬ス可キ裁判所ヲ
羈束ス

第九條 地方裁判所カ事物ノ管轄違ナリトシテ訴ヲ却下スルトキハ原告
ノ申立ニ因リ同時ニ判決ヲ以テ原告ノ指定シタル自己ノ管轄内ノ區裁
判所ニ其訴訟ヲ移送ス可シ

區裁判所カ事物ノ管轄違ナリトシテ訴ヲ却下スルトキハ同時ニ判決ヲ
以テ其訴訟ヲ所屬ノ地方裁判所ニ移送ス可シ
移送ノ申立ハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結前ニ之ヲ爲ス可シ
移送言渡ノ判決確定シタルトキハ其訴訟ハ移送ヲ受ケタル裁判所ニ繫
屬スルモノト看做ス

第二節 裁判所ノ土地ノ管轄(裁判籍)

第十條 人ノ普通裁判籍ハ其住所ニ依リテ定マル
普通裁判籍アル地ノ裁判所ハ其人ニ對スル總テノ訴ニ付キ管轄ヲ有ス
但訴ニ付キ專屬裁判籍ヲ定メサル場合ニ限ル

第十一條 軍人、軍屬ハ裁判籍ニ付テハ兵營地若クハ軍艦定繫所ヲ以テ
住所トス但此規定ハ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者及ヒ兵役義務履行ノ爲メ
ノミニ服役スル軍人、軍屬ニ之ヲ適用セス

第十二條 外國ニ在ル本邦ノ公使及ヒ公使館ノ官吏竝ニ其家族、從者ノ裁判籍上ノ住所ハ本邦ニ於テ本人ノ最後ニ有セシ住所ナリトス此住所ナキモノニ付テハ司法大臣ノ命令ヲ以テ豫メ定ムル東京内ノ區ヲ以テ其住所ナリトス

第十三條 內國ニ住所ヲ有セサル者ノ普通裁判籍ハ本人ノ現在地ニ依リテ定マル若シ其現在地ノ知レサルカ又ハ外國ニ在ルトキハ其最後ニ有セシ內國ノ住所ニ依リテ定マル

然レトモ外國ニ住所ヲ有スル者ニ對シテハ內國ニ於テ生シタル權利關係ニ限リ前項ノ裁判籍ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得

第十四條 國ノ普通裁判籍ハ訴訟ニ付キ國ヲ代表スル官廳ノ所在地ニ依リテ定マル但訴訟ニ付キ國ヲ代表スルニ付テノ規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム公又ハ私ノ法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘタルヲ得ル會社其他ノ社團又ハ財團等ノ普通裁判籍ハ其所在地ニ依リテ定マル此所在地ハ別段ノ定ナキ片ハ事務所所在ノ地トス若シ事務所ナキ片又ハ數所ニ於テ事務所ヲ取扱フ片ハ其首長又ハ事務擔當者ノ住所ヲ以テ事務所ト看做ス

第十五條 生徒、雇人、營業使用人、職工、習業其他性質上一定ニ永ク寓在ス可キ者ニ對スル財産權上ノ請求ニ付テノ訴ハ其現在地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

兵役義務履行ノ爲メノミニ服役スル軍人軍屬ニ對シテハ其兵營地若クハ軍艦定繫所ノ裁判所ニ前項ノ訴ヲ起スコトヲ得

第十六條 製造商業其他ノ營業ニ付キ直接ニ取引ヲ爲ス店舗ヲ有スル者ニ對シテハ其店舗所在地ノ裁判所ニ營業上ニ關スル訴ヲ起スコトヲ得前項ノ裁判籍ハ住家及ヒ農業用建物アル地所ヲ利用スル所有者用益者又ハ貸借人ニ對スル訴ニ付テモ亦之ヲ適用ス但此訴カ地所ノ利用ニ付テノ權利關係ヲ有スルトキニ限ル

第十七條 內國ニ住所ヲ有セサル債務者ニ對スル財産上ノ請求ニ付テノ訴ハ其財産又ハ訴ヲ爲シテ請求スル物ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得債權ニ付テハ債務者(第二債務者)ノ住所ヲ以テ其財産ノ所在地トス又債權ニ付キ物カ擔保ノ責ヲ負フトキハ其物ノ所在地ヲ以テ財産ノ所在地トス

第十八條 契約ノ成立若クハ不成立ノ確定又ハ其履行若クハ銷除、廢能、解除又ハ其不履行若クハ不十分ノ履行ニ關スル賠償ノ訴ハ其訴訟ニ係ル義務ヲ履行ス可キ地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

第十九條 會社其他ノ社團ヨリ社員ニ對シ又ハ社員ヨリ社員ニ對シ其社

民事訴訟法

員タル資格ニ基ク請求ノ訴ハ其會社其他ノ社團ノ普通裁判籍アル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

第二十条條 不正ノ損害ノ訴ハ責任者ニ對シ其行爲ノ有リタル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

第二十一条條 辯護士又ハ執達吏ノ手数料及ヒ立替金ニ付キ其委任者ニ對スル訴ハ訴訟物ノ價額ノ多寡ニ拘ハラズ本訴訟ノ第一審裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

第二十二条條 不動産ニ付テハ其所在地ノ裁判所ハ總テ不動産上ノ訴殊ニ本權並ニ占有ノ訴及ヒ分前並ニ經界ノ訴ヲ專ラニ管轄ス

第二十三条條 不動産上ノ裁判籍ニ於テハ債權ノ擔保ヲ爲ス從タル物權ニ基ク不動産上ノ訴ニ附帶シテ同一被告ニ對スル債權ノ訴ヲ起スコトヲ得

第二十四条條 相續權、遺贈其他死亡ニ因リテ效果ヲ生スル處分ニ基ク請求ノ訴ハ遺產者死亡ノ時普通裁判籍ヲ有セシ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

相續裁判籍ニ於テハ遺產相續者ヨリ遺產者又ハ相續人ニ對スル請求ノ訴ヲ起スコトヲ得但遺產ノ全部又ハ一分カ其裁判所ノ管轄區内ニ存在スルホキニ限ル

第二十五条條 第二十二條ノ規定ヲ除ク外原告ハ數箇ノ管轄裁判所ノ中ニ就キ選擇ヲ爲スコトヲ得

第三節 管轄裁判所ノ指定
第二十六条條 管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法ノ定メタル場合ノ外尚ホ不動産上ノ裁判籍ニ訴ヲ起ス可キ場合ニ於テ不動産カ數箇ノ裁判所ノ管轄區内ニ散在スルトキモ亦之ヲ爲ス

第二十七条條 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス場合及ヒ其決定ヲ爲ス裁判所ハ裁判所構成法第十條ノ規定ニ從テ

第二十八条條 管轄裁判所ノ指定ニ付テハ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ其申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

右裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ其申請ヲ決定ス
管轄裁判所ヲ定メタル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四節 裁判所ノ管轄ニ付テハ合意
第二十九条條 第一審裁判所ハ當然管轄權ヲ有セサルモ當事者ノ合意ニ因リ管轄權ヲ有ス但書面ヲ以テ合意ヲ爲シ且其合意カ一定ノ權利關係及

ヒ其權利關係ヨリ生スル訴訟ニ係ルトキニ限ル

第三十條 被告カ管轄違ノ申立ヲ爲サスシテ本案ノ口頭辯論ヲ爲スト
キハ亦前條ト同一ノ效力ヲ生ス

第三十一條 左ノ場合ニ於テハ第二十九條及ヒ第三十條ノ規定ヲ適用ス

第一 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ係ルトキ

第二 專屬管轄ニ屬スル訴ナルトキ

第五節 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避

第三十二條 判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ヲ執行ヨリ除斥セラル可シ

第一 判事又ハ其婦カ原告若クハ被告タルトキ又ハ裁判ニ係ル請求ニ付キ當事者ノ一方若クハ先方ト共同權利者共同義務者若クハ償還義務者タル關係ヲ有スルトキ

第二 判事又ハ其婦カ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第三 判事カ同一ノ事件ニ付キ證人若クハ鑑定人ト爲リテ訊問ヲ受クルトキ又ハ訴訟代理人タル任ヲ受クルトキ若クハ受ケタルトキ又ハ法律上代理人ト爲ル權利ヲ有スルトキ若クハ之ヲ有シタル片

第四 判事カ不服ノ申立アル裁判ヲ前審又ハ仲裁ニ於テ爲スニ當リ

判事又ハ仲裁人トシテ干與シタルトキ但此場合ニ於テ判事ハ受命判事又ハ受託判事トシテハ職務ノ執行ヨリ除斥セラルルコト無シ

第三十三條 判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルル片及ヒ偏頗ノ恐アルトキハ總テノ場合ニ於テ各當事者ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得
偏頗ノ忌避ハ判事ノ不公平ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ事情アルトキ之ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル場合ニ於ケル判事ノ忌避ハ其判事ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス之ヲ爲スコトヲ得
偏頗ノ恐アル場合ニ於テハ原告若クハ其覺知シタル忌避ノ原因ヲ主張セスシテ判事ノ面前ニ於テ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル後ハ其判事ヲ忌避スルコトヲ得ス

第三十五條 忌避ノ申請ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

忌避ノ原因ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス忌避セラレタル判事ノ職務上ノ陳述ハ其疏明ノ用ニ充ツルコトヲ得

原告若クハ被告カ判事ノ面前ニ於テ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對

シ陳述ヲ爲シタル後其判決ニ對シ偏頗ノ忌避ヲ爲ストキハ忌避ノ原因
其後ニ生シ又ハ之ヲ其後ニ覺知シタルコトヲ疏明ス可シ

第三十六條 忌避セラレタル判事合議裁判所ニ屬スルキハ其裁判所忌避
ノ申請ヲ裁判ス但忌避セラレタル判事ハ其裁判ニ參與スルコトヲ得ス
若シ其裁判所右判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近
上級ノ裁判所其申請ヲ裁判ス區裁判所判事忌避セラレタルトキハ上級
ノ地方裁判所其申請ヲ裁判ス若シ區裁判所判事力忌避ノ申請ヲ正當ナ
リト爲ストキハ裁判ヲ要セス

第三十七條 忌避ノ申請ニ付テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スト
ヲ得忌避セラレタル判事ハ先申請ノ理由ニ付キ職務上意見ヲ述フ可シ
第三十八條 忌避ノ申請ヲ正當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ上告ヲ爲
スコトヲ得ス其申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ
爲スコトヲ得

第三十九條 忌避セラレタル判事ハ忌避申請ノ完結スルマテ總テノ行爲
ヲ避ク可シ然レトモ偏頗ノ爲ニ忌避セラレタル判事ハ猶豫ス可カラサ
ル行爲ヲ爲ス可シ

第四十條 忌避申請ノ管轄裁判所ハ其申請アラサルモ忌避ノ原因タル
事情ニ付キ判事ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ判事カ法律ニ
依リ除斥セラレタル疑アルトキニ亦裁判ヲ爲ス

此裁判ハ豫メ當事者ヲ審訊セスシテ之ヲ爲ス又其裁判ハ之ヲ當事者ニ
送達スルコトヲ要セス
第四十一條 本節ノ規定ハ裁判所書記ニモ之ヲ準用ス但裁判ハ書記所屬
ノ裁判所之ヲ爲ス

第六節 檢事ノ立會

第四十二條 檢事ハ左ノ訴訟ニ付キ意見ヲ述フル爲メ其口頭辯論ニ立會
フ可シ

- 第一 公ノ法人ニ關スル訴訟
- 第二 婚姻ニ關スル訴訟
- 第三 夫婦間ノ財産ニ關スル訴訟
- 第四 親子若クハ養親子ノ分限其他總テノ人ノ分限ニ關スル訴訟
- 第五 無能力者ニ關スル訴訟
- 第六 養料ニ關スル訴訟
- 第七 失踪者及ヒ相續人虧缺ノ遺產ニ關スル訴訟
- 第八 證書ノ偽造若クハ變造ノ訴訟

第九 再審

檢事ノ陳述ハ當事者ノ辯論終リタルトキ之ヲ爲ス
當事者ハ檢事ノ意見ニ對シ事實ノ更正ノミニ付キ陳述ヲ爲スコトヲ得
第二章 當事者

第一節 訴訟能力

第四十三條 原告若クハ被告カ自ラ訴訟ヲ爲シ又ハ訴訟代理人ヲシテ之
ヲ爲サシムル能力ト法律上代理人ニ依レル訴訟無能力者ノ代表ト法律
上代理人カ訴訟ヲ爲シ又ハ一ノ訴訟行爲ヲ爲スニ付テノ特別授權ノ必
要トハ民法ノ規定ニ從フ

第四十四條 外國人ハ自國ノ法律ニ從ヒ訴訟能力ヲ有セサルモ本邦ノ法
律ニ從ヒ訴訟能力ヲ有スルモノナルトキハ之ヲ有スルモノト看做ス

第四十五條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス職權ヲ以テ訴
訟能力法律上代理人タル資格及ヒ訴訟ヲ爲スニ必要ナル授權ニ欠缺ナ
キヤ否ヤヲ調査ス可シ

裁判所ハ遲滯ノ爲メ原告若クハ被告ニ危害アリ且其欠缺ノ補正ヲ爲シ
得ルモノト認ムルトキハ原告若クハ被告又ハ其法律上代理人ニ其欠缺
ノ補正ヲ爲ス條件ヲ以テ一時訴訟ヲ爲スヲ許スコトヲ得此場合ニ於テ
裁判所ハ欠缺補正ノ爲メ相當ノ期間ヲ定メ其期間ノ滿了前ニ判決ヲ爲
スコトヲ得ス但其欠缺ノ補正ハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結マテ之
ヲ追完スルコトヲ得

第四十六條 訴訟無能力者又ハ相續人ノ未定ノ遺産又ハ不分明ナル相續
人ニ對シ訴ヲ起ス可キ場合ニ於テ法律上代理人アラサルトキハ其事件
ノ繫屬ス可キ裁判所ノ裁判長ハ申立ニ因リ遲滯ノ爲ニ危害ノ恐アル場
合ニ限り特別代理人ヲ任ス可シ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコト得此裁判ハ口頭辯論ヲ經ス
シテ之ヲ爲シ其裁判ハ申請人ニ之ヲ送達シ又申請ヲ認許シタルトキハ
其任セラレタル特別代理人ニモ亦之ヲ送達ス可シ
申請ヲ却下スル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

裁判長ヨリ任セラレタル特別代理人ハ法律上代理人又ハ相續人ノ出頭
スルマテ訴訟行爲ニ付キ法律上代理人ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

第四十七條 第十五條ニ掲ケタル場合ニ於テ訴訟無能力者カ其ノ現在地
又ハ兵營地若クハ軍艦定繫所ノ裁判所ニ訴ヲ受ク可キ場合ニ於テ其法
律上代理人他ノ地ニ住スルトキハ遲滯ノ爲メ危害ナシト雖モ前條ノ規
定ニ從ヒ特別代理人ヲ任スルコトヲ得

シ陳述ヲ爲シタル後其判決ニ對シ偏頗ノ忌避ヲ爲ストキハ忌避ノ原因
其後ニ生シ又ハ之ヲ其後ニ覺知シタルコトヲ疏明ス可シ

第三十六條 忌避セラレタル判事合議裁判所ニ屬スルキハ其裁判所忌避
ノ申請ヲ裁判ス但忌避セラレタル判事ハ其裁判ニ參與スルコトヲ得ス
若シ其裁判所右判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近
上級ノ裁判所其申請ヲ裁判ス區裁判所判事忌避セラレタルトキハ上級
ノ地方裁判所其申請ヲ裁判ス若シ區裁判所判事力忌避ノ申請ヲ正當ナ
リト爲ストキハ裁判ヲ要セス

第三十七條 忌避ノ申請ニ付テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スト
ヲ得忌避セラレタル判事ハ先申請ノ理由ニ付キ職務上意見ヲ述ブ可シ
第三十八條 忌避ノ申請ヲ正當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ上告ヲ爲
スコトヲ得ス其申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ
爲スコトヲ得

第三十九條 忌避セラレタル判事ハ忌避申請ノ完結スルマテ總テノ行爲
ヲ避ク可シ然レトモ偏頗ノ爲ニ忌避セラレタル判事ハ猶豫ス可カラサ
ル行爲ヲ爲ス可シ

第四十條 忌避申請ノ管轄裁判所ハ其申請アラサルモ忌避ノ原因タル
事情ニ付キ判事ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ判事カ法律ニ
依リ除斥セラレタル疑アルトキニ亦裁判ヲ爲ス
此裁判ハ豫メ當事者ヲ審訊セシテ之ヲ爲ス又其裁判ハ之ヲ當事者ニ
送達スルコトヲ要セス

第四十一條 本節ノ規定ハ裁判所書記ニモ之ヲ準用ス但裁判ハ書記所屬
ノ裁判所之ヲ爲ス

第六節 檢事ノ立會
第四十二條 檢事ハ左ノ訴訟ニ付キ意見ヲ述フル爲メ其口頭辯論ニ立會
フ可シ

- 第一 公ノ法人ニ關スル訴訟
- 第二 婚姻ニ關スル訴訟
- 第三 夫婦間ノ財産ニ關スル訴訟
- 第四 親子若クハ養親子ノ分限其他總テノ人ノ分限ニ關スル訴訟
- 第五 無能力者ニ關スル訴訟
- 第六 養料ニ關スル訴訟
- 第七 失踪者及ヒ相續人虧缺ノ遺産ニ關スル訴訟
- 第八 證書ノ偽造若クハ變造ノ訴訟

第九 再審

檢事ノ陳述ハ當事者ノ辯論終リタルトキ之ヲ爲ス
當事者ハ檢事ノ意見ニ對シ事實ノ更正ノミニ付キ陳述ヲ爲スコトヲ得
第二章 當事者

第一節 訴訟能力

第四十三條 原告若クハ被告カ自ラ訴訟ヲ爲シ又ハ訴訟代理人ヲシテ之
ヲ爲サシムル能力ト法律上代理人ニ依レル訴訟無能力者ノ代表ト法律
上代理人カ訴訟ヲ爲シ又ハ一ノ訴訟行爲ヲ爲スニ付テノ特別授權ノ必
要トハ民法ノ規定ニ從フ

第四十四條 外國人ハ自國ノ法律ニ從ヒ訴訟能力ヲ有セサルモ本邦ノ法
律ニ從ヒ訴訟能力ヲ有スルモノナルトキハ之ヲ有スルモノト看做ス

第四十五條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス職權ヲ以テ訴
訟能力法律上代理人タル資格及ヒ訴訟ヲ爲スニ必要ナル授權ニ欠缺ナ
キヤ否ヤヲ調査ス可シ
裁判所ハ遲滯ノ爲メ原告若クハ被告ニ危害アリ且其欠缺ノ補正ヲ爲シ
得ルモノト認ムルトキハ原告若クハ被告又ハ其法律上代理人ニ其欠缺
ノ補正ヲ爲ス條件ヲ以テ一時訴訟ヲ爲スヲ許スコトヲ得此場合ニ於テ

裁判所ハ欠缺補正ノ爲メ相當ノ期間ヲ定メ其期間ノ滿了前ニ判決ヲ爲
スコトヲ得ス但其欠缺ノ補正ハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結マテ之
ヲ追完スルコトヲ得

第四十六條 訴訟無能力者又ハ相續人ノ未定ノ遺産又ハ不分明ナル相續
人ニ對シ訴ヲ起ス可キ場合ニ於テ法律上代理人アラサルトキハ其事件
ノ繫屬ス可キ裁判所ノ裁判長ハ申立ニ因リ遲滯ノ爲ニ危害ノ恐アル場
合ニ限り特別代理人ヲ任ス可シ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコト得此裁判ハ口頭辯論ヲ經ス
シテ之ヲ爲シ其裁判ハ申請人ニ之ヲ送達シ又申請ヲ認許シタルトキハ
其任セラレタル特別代理人ニモ亦之ヲ送達ス可シ
申請ヲ却下スル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

裁判長ヨリ任セラレタル特別代理人ハ法律上代理人又ハ相續人ノ出頭
スルマテ訴訟行爲ニ付キ法律上代理人ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

第四十七條 第十五條ニ掲ケタル場合ニ於テ訴訟無能力者カ其ノ現在地
又ハ兵營地若クハ軍艦定繫所ノ裁判所ニ訴ヲ受ク可キ場合ニ於テ其法
律上代理人他ノ地ニ住スルトキハ遲滯ノ爲メ危害ナシト雖モ前條ノ規
定ニ從ヒ特別代理人ヲ任スルコトヲ得

此他裁判ニ對シ抗告ヲ許ス規定ヲ除ク外總テ前條ノ規定ヲ適用ス

第二節 共同訴訟人

第四十八條 左ノ場合ニ於テハ共同訴訟人トシテ數人カ共ニ訴ヲ爲シ又ハ訴ヲ受クルコトヲ得

第一 數人カ訴訟物ニ付キ權利共通若クハ義務共通ノ地位ニ立ツ片
第二 同一ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ

第三 性質ニ於テ同種類ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク同種類ナル請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ

第四十九條 共同訴訟人ハ其資格ニ於テハ各別ニ相手方ニ對立シ其一方ノ訴訟行爲及ヒ懈怠又ハ相手方ヨリ其一人ニ對スル訴訟行爲及ヒ懈怠ハ他ノ共同訴訟人ニ利害ヲ及ホサス

第五十條 然レモ總テノ共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係方合一ニノミ確定ス可キトキニ限リ左ノ規定ヲ適用ス

共同訴訟人中ノ或ル人ノ攻撃及ヒ防禦ノ方法(證據方法ヲ包含ス)ハ他ノ共同訴訟人ノ利益ニ於テ效ヲ生ス
共同訴訟人中或ル人カ爭ヒ又ハ認諾セサルトキト雖モ總テノ共同訴訟

人カ悉ク爭ヒ又ハ認諾セサルモノト看做ス

共同訴訟人中ノ或ル人ノミカ期日又ハ期間ヲ懈怠シタルトキハ其懈怠シタル者ハ懈怠セサル者ヲ代理ヲ任シタルモノト看做ス

然レトモ懈怠シタル共同訴訟人ニハ其懈怠セサリシ場合ニ於テ爲ス可キ總テノ送達及ヒ呼出ヲ爲スコトヲ要ス其懈怠シタル共同訴訟人ハ何時タリトモ其後ノ訴訟手續ニ再ヒ加ハルコトヲ得

第三節 第三者ノ訴訟參加

第五十一條 他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ノ目的物ノ全部又ハ一部分ヲ自己ノ爲ニ請求スル第三者ハ本訴訟ノ權利疏束ノ終ニ至ルマテ其訴訟カ第一審ニ於テ繫屬シタル裁判所ニ當事者雙方ニ對スル訴(主參加)ヲ爲シテ其請求ヲ主張スルコトヲ得

第三者原告及ヒ被告ノ共謀ニ因リ自己ノ債權ニ損害ヲ生スルコトヲ主張スルトキモ亦同シ

第五十二條 本訴訟ハ第一審ニ繫屬スルト上級審ニ繫屬スルトヲ問ハス原告被告若クハ主參加人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ主參加ニ付テノ權利拘束ノ終ニ至ルマテ之ヲ中止スルコトヲ得

中止ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ本訴訟ノ繫屬スル裁判所ニ之ヲ爲ス

コトヲ得

決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

中止ヲ命スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十三條

他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ニ於テ其一方ノ訴訟ニ依リ權利上利害ノ關係ヲ有スル者ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス權利拘束ノ繼續スル間ハ其一方ヲ補助(從參加)スル爲メ之ニ附屬スルコトヲ得

第五十四條

從參加人ハ其附隨スル時ニ於ケル訴訟ノ程度ヲ妨ケサル限リハ其主タル原告若クハ被告ノ爲ニ攻撃及ヒ防禦ノ方法ヲ施用シ且總テノ訴訟行爲ヲ有效ニ行ヒ殊ニ主タル原告若クハ被告ノ爲ニ存スル期間内ニ故障支拂命令ニ對スル異議又ハ上訴ヲ爲ス權利ヲ有ス

從參加人ノ陳述及ヒ行爲ト主タル原告若クハ被告ノ陳述及ヒ行爲ト相牴觸スル場合ニ於テハ主タル原告若クハ被告ノ陳述及ヒ行爲ヲ以テ標準ト爲ス但民法ニ於テ此ニ異ナル規定アルトキハ此限ニ在ラス

第五十五條

從參加人ハ訴訟ヨリ脱退シタルトキト雖モ其補助シタル原告若クハ被告トノ關係ニ於テハ其訴訟ノ確定訴訟ヲ不當ナリト主張スルコトヲ得ス

從參加人ハ其附隨ノ時ノ訴訟ノ程度ニ因リ又ハ主タル原告若クハ被告ノ行爲ニ因リ攻撃及ヒ防禦ノ方法ヲ施用スルコトヲ妨ケラルルトキ又ハ主タル原告若クハ被告カ從參加人ノ當時知ラサリシ攻撃及ヒ防禦ノ方法ヲ故意又ハ重過失ニ因リ施用セサリシトキニ限り其補助シタル原告若クハ被告カ訴訟ヲ不十分ニ爲シタルト主張スルコトヲ得

第五十六條

從參加ハ本訴訟ノ繫屬スル裁判所ニ申請ヲ以テ之ヲ爲ス可シ申請ニハ當事者及ヒ訴訟ヲ表示シ又一定ノ利害關係及ヒ附隨セントスル陳述ヲ開示ス可シ

申請ニハ當事者之ニ送達ス可シ

從參加ハ故障異議又ハ上告ト合併シテ之ヲ爲スコトヲ得

第五十七條

原告若クハ被告カ從參加ニ付キ異議ヲ述フルトキハ當事者及ヒ從參加人ヲ審訊シタル後決定ヲ以テ參加ノ許否ヲ裁判ス其裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

利害關係ノ存否ニ付キ爭アルトキハ從參加人其關係ヲ説明スルノミヲ以テ參加ヲ許スニ足ル

右ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

參加ヲ許ササル訴訟確定セサル間ハ從參加人ヲ本訴訟ニ立會ハシメ殊